2022 京都橘大学

「地域連携型教育プログラム」実績集

（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2022年4月～2023年3月）

京都橘大学
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集

はじめに		2
Ⅰ.「学まち連携大学」促進事業		
学まち採択内容のイメージ図および説明		4
学まちチャレンジ！プロジェクト	採択団体一覧と取組み概要	5
実践例	京野菜の普及活動	6
	「やましなエコバック」で山科地域をもっと楽しく！美しく！	7
	楽しくしっかり学ぼう！！	8
	京都市山科図書館開館70周年☆アニバーサリー・サポートプロジェクト	9
	京焼・清水焼の魅力を発信しよう！―箸置き絵付けワークショップという可能性を―	10
	大学生が教えるケガ予防教室	11
	映画・レコード鑑賞会～あの頃の思い出をもう一度語ろう！	12
	和太鼓をドンドン広めよう！！	13
	SUUMOと連携した山科区の魅力発信動画の制作	14
	山科地域の魅力企業を発信するマルシェ＆オーナメントワークショップ	15
	子育て世代の交流を目的としたものづくりイベントの実施	16
卒業生インタビュー	卒業生の学びの見える化	17
京都薬科大学との連携事業	東野公園での「景観喫茶」の実施	18
	市民向け共同公開講座 京のやくたちばなし	19
	京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施！	20
Ⅱ. 地域連携活動		
実践例	たちばなサイエンスデー 2022	22
	『たちばなこども食堂』開設	23
	山科警察署職員向けの英会話教養講座	24
	錦市場商店街の価値発信プロジェクト	25
	エターナリープロジェクト　―大学生が提案するアップサイクル体験―	26
	「七夕陶灯路 2022」の実施	27
	小学生向けプログラミング教室でドローンをとばす	28
	駅ナカアートプロジェクト	29
	近江日野商人「旧島﨑善兵衛邸」活用提案	30
	京都府立植物園におけるレストスペースの提案	31
	「看護お助けたい in 醍醐中山団地」の活動	32
	たちばな健康相談	33
	生涯健やか看護学実習Ⅰで行う高齢者体力測定	34
	地域住民による看護学部1回生へのお助けたい演習	35
	高齢者健康調査を通したヘルスプロモーション活動	36
	子どもの体力測定会	37
	山科団地地区におけるヘルスプロモーション活動	38
	作業をとおした高齢者と学生の交流	39
	調査データを「まちづくり」に生かす「草津駅東口での来街者調査活動」	40
	地域住民の身体能力特性マップ活用方法の仮説立案	41
	一次救命処置（BLS）と応急手当の普及活動	42
	山科区近隣地域の河川における水質解析を通じた学び	43
一覧表	その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）	44
Ⅲ. 協定等	自治体等との連携協力に関する協定の締結	56

京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2022年4月～2023年3月）

京都橘大学
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

はじめに

岡 田 知 弘
地域連携センター長

コロナ禍３年目のなかで

本書は、京都橘大学における 2022 年度の地域連携実績をまとめた報告書です。本年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の皆さんとの連携は困難をともないました。けれども、本学では教職員や学生のワクチン接種も順調にすすみ、また感染拡大を防止しながら様々な工夫をすることで、教育研究や地域連携の活動をある程度すすめることができました。

第二期「学まち連携大学」促進事業の展開

本学は、一昨年度半ばに、京都市が実施する第二期「学まち連携大学」促進事業に採択され、今年度は本格的な事業の展開をすすめてきました。

本学は、すでに 2016 ～ 2019 年度において、京都市の「学まち連携大学」促進事業に採択され、学生と教職員が一体となって地域のみなさんとの協同の取組みを展開してきましたが、その実績が認められ、2020 年度からは「山科・醍醐地域で『変化を楽しむ』地域連携型教育プログラム」というテーマで、同じく京都市山科区に立地している京都薬科大学との共同事業を開始しました。

2022 年度では、これまでの成果を踏まえた多様なプロジェクトを、感染対策に注意しながら、一斉に展開してきました。例えば、地域連携の可視化をテーマとした「見える！！地域連携」プロジェクトでは、学生公募型地域連携活動助成事業として「学まちチャレンジ！プロジェクト」事業を実施し、昨年度を上回る学生グループが多彩な活動を展開しました。併せて、地元の金融機関や経済団体等との連携にも力を入れました。

さらに、京都薬科大学との連携による「区民に身近な大学へ」プロジェクトでは、昨年度に続き共同公開講座「京のやくたちばなし」（全３回）を開催し、両大学の教職員の協力によって、多くの参加者の好評を得ました。加えて、共同学生団体「ME-ME(ミーム)」が中心となり、景観喫茶を運営し、地域住民との交流を深めました。以上の成果を SNS で発信する取り組みも継続的に行いました。

地域連携センターを中心にした今後の事業展開へのご協力を

この第二期「学まち連携大学」促進事業の推進主体になっているのが、本学地域連携センターです。本学は 2005 年に男女共学化とともに教学理念を「自立・共生・臨床の知」と再設定して、「臨床＝現場＝地域」から学び、地域と共生することを謳いました。そしてこの方針のもと、地域との連携機能をより一層発展させるために 2014 年４月に地域連携センターを開設いたしました。

当センターとしては、今後とも、第二期「学まち連携大学」促進事業の推進にいっそう力を注ぐとともに、同事業以外の分野でも教職員や学生による多様な地域連携事業の展開と広報に努めていきたいと考えております。どうぞ、今まで以上に、本学の地域連携活動にご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げる次第です。

Ⅰ
「学まち連携大学」促進事業

2020～2023年度

「学まち連携大学」促進事業

山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム

2020年度から2期目の採択を受け、新たなプログラムを展開しています。
「山科・醍醐地域で『変化を楽しむ』地域連携型教育プログラム」と題し、地域連携活動の可視化をテーマとした①「見える！！地域連携」プロジェクトと、京都薬科大学との連携による②「区民に身近な大学へ」プロジェクトの2つを実施しています。

①「見える！！地域連携」プロジェクト

地域連携活動を下記4つの視点で可視化（見える化）します。

学生ニーズの可視化

▶学生による公募型地域連携活動への助成事業「学まちチャレンジ！プロジェクト」

→P.6～16

教育効果の可視化

▶PROGテスト※による学生の成長度測定事業

▶卒業生へのインタビュー事業 →P.17

※ジェネリックスキルをリテラシーとコンピテンシーの2つの観点から測定

活動成果の可視化

▶京都薬科大学との共同学生団体ME-ME（ミーム）による地域活性化事業の発信

京都薬科大学と連携

地域の変化の可視化

▶地域連携活動対象地域におけるアンケート調査事業

▶大学認知度調査事業

②「区民に身近な大学へ」プロジェクト

「地域貢献」と「学生教育」の観点から京都薬科大学と連携し、下記の取組を実施いたします。

市民向け共同公開講座の実施

本学と京都薬科大学の教員が講師となり、市民向けの役立つ講座「京のやくたちばなし–健康で豊かに暮らすコツ–」を開催しました。

→P.19

共同学生団体の設立・活動の展開

2020年度に設立した本学と京都薬科大学の学生からなる共同学生団体ME-ME（ミーム）が、様々なイベントを実施しました。

→P.18

山科・醍醐地域医療人養成プラットフォーム（仮）

京都橘大学・京都薬科大学・地域の連携による、医療人の養成と地域活性化を目指します。今年度、合同多職種連携教育（IPE）を実施しました。

→P.20

京都薬科大学との連携でより身近な大学へ

【「見える！！地域連携」プロジェクト】学生ニーズの可視化

学生による公募型地域連携活動への助成事業「学まちチャレンジ！プロジェクト」

本事業は、本学学生から応募される主体的な地域連携活動に対し助成を行うものです。
学生の地域社会における多様な学びを支援し、自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、その活動をもって、地域貢献や大学活性化、学生文化の向上につながるように実施するものです。

募集対象　地域社会への貢献を目的とした取り組み（対象地域は京都市内に限る）
応募資格　本学の正規学生（学部生、大学院生）で原則３名以上のグループ

2022 年度採択団体一覧

NO.	チーム名	プロジェクト名	概　要
1	AVO（アボ）	京野菜の普及活動	山科なすを中心とした京野菜の魅力をもっと大勢の方に知ってもらい、京都全体で京野菜を盛り上げていくため、京野菜普及のポスターやチラシ作成、イベント開催などを行うプロジェクト。
2	えしかるず橘	「山科エコバッグ」で山科地域をもっと楽しく!美しく!	「エシカル消費」をテーマに山科地域における地域の魅力を再認識してもらうとともに住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動としてエコバックワークショップを実施するプロジェクト。
3	OSJ 橘	楽しくしっかり学ぼう!!	手で字を書く機会、特に墨と筆を使う機会は極端に減っていく中で、子どもたちに墨と筆で字を書く楽しさを感じてもらうための書道体験会を実施するプロジェクト。
4	京都橘大学図書館情報学研究会（略称：キットケン）	京都市山科図書館開館 70 周年☆アニバーサリー・サポートプロジェクト	山科地域の子育て世代および子どもたちを対象に、お話の世界や本の魅力を様々な形式の表現で伝えるイベントの実施や「大学生がおススメするブックリスト」制作で、本を通じ、地域とつながりをもつプロジェクト。
5	京焼･清水焼広め隊!	京焼・清水焼の魅力を発信しよう!ー箸置き絵付けワークショップという可能性をー	京都の伝統産業である京焼・清水焼を少しでも知る機会を持ってもらうために、主に京都を訪れる観光客や修学旅行生に向けたパンフレットの制作、箸置きの絵付けワークショップを開催し、伝統産業の振興につなげるプロジェクト。
6	スポーツリハビリテーションサークル	中学校運動系クラブの中学生の怪我予防を行おうー運動系クラブに出向きケガ予防の出張出前授業	山科地域のクラブ活動をしている中学生に対し、自主的に実施することのできるストレッチやトレーニング、テーピングの指導を行い、怪我を予防することで、成長期の選手の未来を支えるプロジェクト。
7	まちづくり研究会	映画・レコード観賞会～あの頃の思い出をもう一度語ろう!～	参加者全員で映画・レコードを鑑賞し、観賞経験を共有することをとおしてコミュニケーションを図り、高齢者の居場所づくりについてのニーズを把握するプロジェクト。
8	和太っ鼓たちばな	和太鼓をドンドン広めよう!	地域の子どもから高齢者を対象に、和太鼓体験会や太鼓づくりワークショップを開催し、和の文化である和太鼓を知り、楽しんでもらうプロジェクト。

外部機関との連携型プロジェクト

NO.	連携機関	概　要
1	山科区役所	山科区の課題の一つである人口流出に対して、山科地域の景色や人にフォーカスし、動画として魅力を発信するプロジェクト。
2	京都信用金庫山科支店	京都信用金庫のネットワークを通じて、山科地域の魅力ある企業や産業を PR するマルシェを実施し、山科地域の地域活性化を目指すプロジェクト。
3	醍醐いきいき市民活動センター	醍醐周辺地域の子育て世代の交流を目的としたモノづくりイベントを実施し、コロナ禍における失われたつながりをどのように取り戻すかを考えるプロジェクト。

学まちチャレンジ！プロジェクト

京野菜の普及活動

報告：AVO（アボ）

プロジェクト内容

グループ名「AVO」には「area（地域）に対してvitalityをもってorganize（組織）していこう」という思いが込められています。活動を検討する中で「京野菜」に着目し、普及したいと考えました。まずは京都市産業観光局南部農林振興センターや山科なすの農家さん、九条ねぎの栽培、販売を行う「こと京都株式会社」からお話を伺いました。そこから私たちはイベント開催をすることで地域の方々や学生に京野菜という存在を知ってもらいたいと考えました。無印良品京都山科にご協力いただけることとなりイベント開催が決定しました。

イベントは店舗内で京野菜を使った寄せ鍋を炊き出しスタイルで実施しました。多くの方に来てもらうために京都橘大学内でのチラシ掲示やＳＮＳを活用した若者向けの告知を行いました。また、鍋を試食していただいた方に京野菜の認知度アンケートを実施し、京野菜の現状を調査しました。

プロジェクトの成果と学び

イベントでの鍋の提供目標を100杯分としていましたが、結果的には２時間半で目標の100杯を達成し、最終的には110杯ほど提供することができました。

イベントに参加していただいた方からは「普段食べている野菜よりも香りが強く感じる」「金時にんじんの色が鮮やか！」「京野菜は値段が高いから、なかなか手を出せない」など様々な声をいただきました。

アンケートでは「京野菜の食べる頻度」と「今回の京野菜を使った鍋を試食したうえで今後購入してみようと思ったか」の２点を調査しました。「京野菜の食べる頻度」については「１週間に１回以上を食べる」が46％を占めていました。また、インタビューの中で京野菜が安くなっているタイミングや青果市場で購入することが多いという声もあり、毎日食卓に並ぶことは少ないと考えました。「今回の京野菜を使った鍋を試食したうえで今後購入してみようと思ったか」については「購入したい」が約86％を占めており、改めて京野菜の美味しさや魅力が伝わり、少しでも興味を持ってもらうことで普及に繋がったのではないかと感じました。

また、今回の活動で関係各所にお話を伺いに行くなどの行動力、積極性やイベントに必要な準備物や購入依頼品の数値を決定するためにリスクに対応できるように準備をしなければならないリスクヘッジの重要性を学びました。イベントを開催するためには念入りな打ち合わせが必要でしたが、現場でシミュレーションをすることでより具体的な計画をまとめることができること、仲間との意思疎通が重要であることを学び、イベント運営の難しさを実感することができました。

京野菜の普及活動を通して京野菜の市場価値や産業化に伴う特性の違い、特に山科なすや九条ねぎなどについて理解を深め、普段では学ぶことができないことを学ぶことができ、新たな知識を得られました。

今後の展開

今回のプロジェクトで京野菜の魅力などは伝わったと感じたのですが、アンケートの結果を通して京野菜を食べる頻度がまだ少ないと感じました。そのため、これからも京野菜の魅力発信し、より身近に感じてもらう必要があると考えました。今後は、このプロジェクトを後輩に受け継いでより多くの人々に京野菜の魅力を知ってもらい、京野菜の食べる頻度を増やしていく活動をしていきたいと考えています。

イベントの様子１

イベントの様子２

山科なす農家さんに
お話を聞いている様子

学まちチャレンジ！プロジェクト

「やましなエコバック」で山科地域をもっと楽しく!美しく!

報告：えしかるず橘

プロジェクトの内容

本プロジェクトは、近年話題となっている「エシカル消費」をテーマに山科地域の住民に地域の魅力を再認識してもらうとともに、住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動を実施しました。

本プロジェクトの目的は、エシカルが目指す「人・社会」、「環境」、「地域」に配慮した消費行動を促すものです。

（1）山科地域におけるエシカル消費の担い手をつくる【人・社会】

ワークショップを行うことによって、エシカル消費について理解してもらい、エシカル消費の担い手として実践的に活動してもらい、未来に活動を伝承していく人をつくります。

（2）エコバックを日常的にもつ文化を山科に【環境】

自分の作ったエコバックに愛着をもってもらい、日ごろからエコバックを活用するきっかけをつくります。

（3）エコバックに山科地域の魅力が描かれる【地域】

山科魅力缶バッチ（山科のゆるキャラの「もてなすくん」、山科の京野菜など）の作成を通して山科の魅力を知る、もしくは再確認できるきっかけをつくります。

具体的な活動内容としては2021年度と同様、参加者にスタンプやペンを用いてオリジナルのエコバックを作成するワークショップを実施しました。また、今年度は山科地域の魅力写真を缶バッチにして山科地域の魅力を表現し、エコバックに取り付けてもらいました。山科地域の魅力写真については、事前に山科魅力パネル（数種類の山科の魅力写真とその魅力の説明が書かれたもの）を用意し、魅力を理解してもらったうえで選択してもらい、缶バッチとして作成してもらいました。最後にはアンケートも実施しました。

プロジェクトの成果と学び

無印良品京都山科で実施して、参加人数は約30人でした。今回用意した山科地域の魅力写真は「もてなすくん」、「きよまろ」、「京焼・清水焼」、「随心院」、「カワセミ」です。子どもたちからは、「なすびのキャラクター見たことある」「かわいい」「見てみたい」「いってみたい」などの声を聞くことができ、山科について興味を持ってもらえたのではないかと感じました。また、保護者の方からも、「（山科地域の魅力について）知らなかった」「山科にはこんなものがあるのか」などの声があり、山科への関心が高まったのではないかと感じています。アンケート項目には、今回のイベントを通して、エコ環境について興味を持ったか、山科について興味が深まったか、作ったエコバックを使ってみようと思うか、などを記載しましたが9割の方が全ての項目で「はい」と答える結果となりました。実際に子どもたちからも「楽しかった」だけでなく、「学校に持っていく」「使いたい」と言ってもらうことができ、とても意味のあるワークショップになったのではないかと考えています。

今後の展開

2021年度に引き続き、多くの地域の方と関わり、どうすれば楽しんでもらえるか、参加してみたいと思えるかなどを考える中で、企画力や子どもたちとのかかわり方、コミュニケーション能力を得ることができたと考えています。また、缶バッチワークショップを通して、私たち自身も山科地域の魅力を再確認できました。今後も新たなメンバーを募集し、エシカル消費の視点からイベントを考えていきたいと思っています。

学まちチャレンジ！プロジェクト

楽しくしっかり学ぼう！！

報告：OSJ橘

プロジェクト内容

「OSJ橘」は、地域連携活動に関心を持つ京都橘大学文学部日本語日本文学科書道コース有志の学生による団体で、子どもたちに書道に楽しく触れてもらうために結成されました。イオンタウン山科椥辻や大宅児童館、たちラボ山科にて地域に住むお年寄りから子どもを対象にイベントを企画、運営しています。

今年度は書道教室のような企画や筆や色付きの筆ペンを使って色紙・うちわ・栞に好きな文字を書いてもらう企画、紙コップで作った風鈴やポスターカードに好きな文字や絵を書く企画など様々なイベントを実施しました。対象者に合わせて指導方法を変えながら、OSJ(おもしろい・しっかり学べる・字が上手くなる)を達成できるよう活動しました。

・8月20日「書道で夏の思い出をつくろう」イオンタウン山科椥辻（参加者40名）
・8月22日「大学生といっしょに夏のものづくり体験を一緒にしよう！」大宅児童館（参加者65名）
・9月～1月（計5回）「大学生と一緒に書道を楽しく学ぼう」たちラボ山科（参加者計12名）
・12月28日、29日「大学生と一緒に書道を楽しく学ぼう～12月は書初め練習会！！～」たちラボ山科（参加者計17名）

プロジェクトの成果と学び

イベント参加者からは「とてもおもしろかった」「書道を学ぶ機会が少ない中で良いイベントをしているね」「小さな子どもが書いている姿を見るとほっこりする」などのお言葉をいただきました。幅広い世代の方に楽しんでいただき、書道を通して世代を超えた交流ができたと思っています。

また、企画への参加者を増やす取り組みとして、地域の小学校にチラシ配りを行いました。また、大宅児童館、イオンタウン山科椥辻、山科区役所との繋がりを活かし、チラシを配架していただきました。2019年に先輩方が立ち上げたOSJ橘ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により一度活動が途絶えてしまったため、今年度は連携先を作るという目的と、定期的に活動するための土台作りを目的に活動しましたが、チラシ配りを通して、青少年活動センターや特別支援施設、児童館などの新たな連携先を作ることができました。子どもに指導する経験が少ない学生もいましたが、活動をとおして、子どもとの接し方や教え方を学ぶことができ、教員をめざす学生にとって大変良い経験となりました。

今後の展開

今回の取り組みをとおして、山科区内に書道教室が少なく、特にマンツーマンで進捗に合わせて指導する個別最適化した教え方は、私たちにしかできない強みだと分かりました。しかし企画への参加人数が少ない時があるため、多くの人に企画を知ってもらい、参加者を増やすことが課題としてあります。参加者を増やす取り組みとして、チラシの配布や掲示、Instagramで毎日投稿も行いましたが、定期的に参加する人は少ない状況です。そのため、チラシ配りとInstagramは継続して行い、新たな連携先での活動を増やしていきたいと思っております。

また、メンバー一人一人のスキルアップも課題であり、活動をしていく中で、その人その人に合った教え方を学び、より書道の魅力を感じてもらえるようにしていきたいです。

学まちチャレンジ！プロジェクト

京都市山科図書館開館 70 周年☆アニバーサリー・サポートプロジェクト

報告：京都橘大学図書館情報学研究会

プロジェクト内容

京都橘大学図書館情報学研究会（キットケン）は、本が好きで図書館の活動に関心を持つ学生が集まった団体です。私たちは「子どもたちに図書館は楽しい場所と思ってもらう」ことを目標に８月、11月、12月に山科図書館での活動を行いました。まず、子どもたちに図書館という場に興味を持ってもらうために、それぞれの季節や行事ごとをイメージし、折り紙やイラストなどを用いて山科図書館の児童スペースの飾り付けと、子ども向けの絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。また、ヤングアダルト世代を対象としたブックリストを作成し、11月の活動時に山科図書館に提供しました。さらに、山科に伝わる伝承を子どもたちにも知ってもらいたいという思いから、「やましなを語りつぐ会」の方に許可をいただいて、紙芝居を子ども向けにわかりやすくリメイクし、12月に読み聞かせを行いました。

プロジェクトの成果と学び

初回に集まってくださった方は５名ほどでしたが、最終回には20名ほどの方に来ていただき、活動の広まりを感じました。今回のプロジェクトでは、季節や行事を意識して絵本や紙芝居の選書をしたり児童スペースの飾り付けを行ったりというように、子どもたちに関心を持ってもらうための工夫を組み込みました。読み聞かせが始まると、子どもたちは私たちの読み聞かせを楽しんでくれている様子が見られました。しかし、来てくれた子の年齢には合わない絵本を読んでしまったこともあったので、様々な年齢層向けの絵本を準備しておくことの大切さに気づきました。また、11月から山科図書館で配布しているブックリストは好評をいただくことができ、多くの方に手に取っていただいていることを実感しました。

読み聞かせを行ったことにより、本を通じて子どもたちとコミュニケーションを取る楽しさを学びました。しかし、選んだ本の対象年齢が実際に来てくれた子より高かったため、本の内容を理解できない年代の子がいるというケースもあり、絵本の選書の難しさを体感しました。ブックリストの作成においては、普段の学校生活では体験できない編集作業に取り組むことができ、貴重な経験になったと感じています。山科の伝承を題材にした紙芝居をリメイクする過程では、数多くの山科の伝承について理解を深めることができ、また、山科の伝承を語り継ぐために活動されている方々がいることも知ることができました。この活動を行うなかで、私たちが想定していた以上に地域の方々と関わらせていただく機会があり、このことも私たちにとって大きな経験になりました。

今後の展開

図書館に来館してくださった方には楽しんでいただけたのですが、まだまだ本や図書館に苦手意識を持つ人も少なくないことを感じました。そのため、今後も山科図書館と連携して、本と人とを繋げられるような活動を推進していくとともに、今回、私たち主導では実施できていなかった宣伝や告知というようなより多くの人に興味をもってもらうための活動にも取り組んでいきたいと考えています。

イベントの様子１

イベントの様子２

ブックリスト

学まちチャレンジ！プロジェクト

京焼・清水焼の魅力を発信しよう！ー箸置き絵付けワークショップという可能性をー

報告：京焼・清水焼広め隊！

プロジェクト内容

「京焼・清水焼広め隊！」は、京都市内での地域連携活動に関心を持つ現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の学生による学生団体です。８月にホテルエミオン京都清水焼窯元平安玉凰陶苑の展示場にて「京焼・清水焼箸置き絵付けワークショップ」を開催しました。このワークショップは京都を訪れる観光客や修学旅行生・伝統産業を学びたい方に普段使いできる箸置きを通して絵付け体験をしてもらい、京焼・清水焼の良さや存在を身近に感じてもらうことを目的に学生たちが企画したものです。当日は清水焼窯元平安玉凰陶苑のご協力を得て作成したパンフレット等で参加者に京焼・清水焼の歴史や作成工程を説明したうえで、箸置きの絵付け体験をしていただきました。

年代を問わず、たくさんの方に体験していただくために声かけ積極的に行い、体験中もコミュニケーションをとるように心がけました。また、本ワークショップは８月に５回、11月に嵐電嵐山駅はんなり・ほっこりスクエアで３回、12月に大学内のイベント「冬灯夜」と交流会、１月にイズミヤショッピングセンター六地蔵店にて計11回開催しました。

プロジェクトの成果と学び

参加者については全11回の開催で、のべ345名の方に楽しんでいただくことができました。初日は体験の流れをつかむことに必死でしたが、回を重ねるごとに会場に合わせた接客対応や京焼・清水焼の作成工程が伝わるシート作成、体験内容にラッピング用紙への絵描きを追加するなど工夫を取り入れました。その成果として、実施後のアンケートでは「とても楽しかった」「楽しく京焼・清水焼について学べました」「思い出を形に残せて良かったです」などの声をいただき、皆さんに楽しんでいただくことができました。また、伝統産業に触れる機会を求めている人がいるものの、気軽に親しむ機会が少ないということを知りました。今回のような気軽にできるワークショップはこのような課題を解決する場になるのではないかと思います。

今回の取り組みをとおして、学んだことは二つあります。一つ目は清水焼の職人の方との交流の中で清水焼の価値や制作の大変さを学びました。二つ目は、実際にワークショップを開催して人と交流することの楽しさや大切さ、学んだことを人に伝えることの難しさ実感しました。貴重な体験をたくさんすることで成長することができました。

今後の展開

今回の取り組みを通して、伝統産業に触れる機会を求めている人がいるものの、気軽に親しむ機会が少ないということが分かりました。そこで、このワークショップが場所や年代を問わず様々な場面で開催する事ができる点から、マニュアルを作るなどして誰でもこのイベントを開催できるような仕組みを検討しています。

完成した作品

イベントの様子

体験中の様子

学まちチャレンジ！プロジェクト

大学生が教えるケガ予防教室

報告：スポーツリハビリテーションサークル

プロジェクト内容

本プロジェクトでは、運動部に所属する中学生に対して、スポーツ障害の予防に対する知識や自己管理能力を身につけてケガ予防やパフォーマンスの向上につなげることを目的としました。地域の中学校に広報、募集を行い、教室開催前後における体力測定会および指導を大学内施設（体育館）において10月と12月の２回実施しました。さらに１回目と２回目の間に３度、中学校体育館へ訪問し、指導内容が正しく実践できているか確認するためにスポーツ現場における助言・指導を行いました。

〇参加人数
大宅中学校の生徒37名（男子バスケットボール部22名、女子バスケットボール部７名、女子バレーボール部８名）、中学校顧問・指導者５名
〇実施体制
スポーツリハビリテーションサークルに所属する理学療法学科学生９名
〇実施内容
メディカルチェックによる自分の強み・弱みの把握、テーピング指導、ストレッチ指導、トレーニング指導

プロジェクトの成果と学び

〇中学生からの意見・感想
・アンケートの結果、本プロジェクトに参加したすべての中学生が部活をはじめとする競技活動で役に立つと回答。また、約8割の中学生がまた企画してほしいと答えてくれました。
・「楽しかった」、「わかりやすい指導だった」、「ためになった」といったポジティブな感想が多く見られ、好評いただいたと考えます。
・今回の教室での内容を部活や家で実践したり、活用したりすることで、自らが主体となってスポーツ障害予防、身体機能向上に努めたいとの声が多く聞かれました。
〇生まれた連携や地域での活動の広がり
今回の活動を通して、学生と地域の中学生が交流することができました。また、本学学生の活動を地域の中学生や教員の方々に知っていただく機会となりました。

本プロジェクトをとおして、授業で学んだことを中学生に教えることの難しさを学びました。できるだけ医療用語を用いず、中学生にもわかりやすい言葉を選ぶように工夫しました。また、自宅や部活動の中で継続的にプログラムを行えるよう参加者が日常生活で取り入れやすい形態にアレンジすることの大切さを学びました。参加者にとって有益な内容となるようなメニューを提供することと、参加者が楽しめるプログラムとすることを両立させることの難しさも学びました。

今後の展開

今回の活動は大宅中学校を対象として活動を実施しました。今後この活動を一つの学校の生徒のみで実施する場合は学生である私たちが学校に出向くことによってよりプロジェクト活動を実施しやすくなるのではないかと考えます。また、より多くの人にこの取り組みを知ってもらうために、活動内容を広く発信し、他の中学校にも対象を広げて実施することも検討していきたいと思います。

学まちチャレンジ！プロジェクト

映画・レコード鑑賞会～あの頃の思い出をもう一度語ろう!

報告：まちづくり研究会

プロジェクト内容

本プロジェクトは、コロナ禍で高齢者の方の居場所が少なくなっているという地域課題を知ったことから、高齢者の方が楽しく交流できるイベントを企画しフリースペース（山科区にある地域住民の居場所）の一つ、ふれあいルーム「絆ひろば」で実施しました。レコードプレイヤーで曲を流し、当時のなつかしい歌謡曲を聞きながら昔の思い出話に花を咲かせました。また、高齢者の社会的孤立予防、地域の居場所の促進、山科にあるフリースペースの活用、多世代交流の場、社会福祉協議会などとの連携を目的として現在開かれているフリースペースを実際に訪れ、フリースペースの実態調査も実施しました。

プロジェクトの成果と学び

10月15日、12月17日にレコード鑑賞会、11月19日に映画鑑賞会を山階南小学校のふれあいルーム「絆ひろば」で実施しました。参加人数はのべ67人と多くの方に参加していただきました。

レコード鑑賞会では「すごく楽しかった。また来たいと思った」「いろんな方との交流ができ、いろんな話を聞けるため癒された」「昔のことを思い出して懐かしかった」などの感想をいただきました。映画鑑賞会では「昔より楽しんで観ることができた」「吹き替えのおかげで映画に引き込まれてしまった」などの感想がありました。参加者の方が見られていた当時の映画は、英語音声の日本語字幕というスタイルばかりだったようで、今回は音声・字幕共に日本語で上映したので、登場人物の心情の変化なども分かりやすく昔より面白かったという意見が多かったのではないかと思います。開催場所であるふれあいルーム「絆ひろば」は、普段から高齢者の方が利用されていますが、鑑賞会の後のアンケートで、参加された方の３分の２以上がこのフリースペースを初めて利用したということが分かりました。以前から利用されていた方からは「想像以上に多くの参加者でびっくりしている」や、初めて利用した方からは「今後も機会があれば利用したい」などの声をいただきました。山科には13カ所のフリースペースがありますが、現在フリースペースとして開いている場所は４カ所しかないことが調査を通してわかりました。フリースペースには高齢者施設や病院を利用しているところもあり、コロナ禍でそれらの利用が難しくなっているのが現状です。

コロナ禍で私たち学生も人と交流する機会を失っていたので、地域の方との交流の機会はとても貴重なものでした。レコードや映画の鑑賞会を楽しんでいただけたことから昔使われていたものを用いることは需要があることがわかりました。

今後の展開

コロナ禍で高齢者の方の居場所が少なくなっているということが課題としてあげられます。またフリースペースの認知度もそれほど高くないことがアンケートを通してわかりました。これらのことから、今後コロナ禍でも高齢者の方が集まり交流ができる方法を考えていく必要があると感じました。今回の企画で社会福祉協議会と連携して進めることができました。この繋がりはまちづくり研究会の中で後輩へ受け継ぎ、今後も高齢者の居場所づくりに協力できたらと思います。

レコード鑑賞会の様子

映画鑑賞会の様子１

映画鑑賞会の様子２

学まちチャレンジ！プロジェクト

和太鼓をドンドン広めよう！！

報告：和太っ鼓たちばな

プロジェクト内容

京都橘大学和太鼓部の有志で結成した和太っ鼓たちばなは、体験会イベントを通して、和太鼓や楽器を演奏する楽しさを知ってもらうことを目的とした団体です。

今年度は８月に和太鼓体験会と竹太鼓づくりワークショップ、１月に和太鼓体験会を開催しました。すべてのイベントで和太鼓部による演奏も行いました。8月の和太鼓体験会では、和太鼓の体験を小学生向けに実施しました（親子での参加も可能）。バチの持ち方からレクチャーし、和太っ鼓たちばなが考えたオリジナル曲を一緒に演奏する体験を行いました。また、同じく小学生向けに実施した竹太鼓づくりでは、竹太鼓をシールなどで飾りつけした後、完成した竹太鼓を曲に合わせて自由に叩く体験を行いました。２つの体験会では、両日共通で体験会までの待ち時間に利用できるミニブースを設置し、ペットボトルキャップで作る太鼓ストラップづくり、オリジナルハチマキづくり、太鼓と写真撮影ができるようにしました。

１月の和太鼓体験会では、和太鼓の体験を全世代向けに実施しました。気軽に体験できる試し打ちコースと、これにオリジナル曲を一緒に演奏する体験を加えた曲体験コースを設定し、気軽に和太鼓に触れていただけるようにしました。

プロジェクトの成果と学び

８月８日（月）、８月18日（木）、１月28日（土）の計３回実施、のべ65名（うち子ども39名）の方にご参加いただきました。

8月の小学生向けのイベントでは和太鼓体験や竹太鼓づくりで一度に体験してもらえる人数が限られていたため、ワークショップや写真撮影などのミニブースを設置することにより待ち時間も楽しむことができるような工夫を取り入れました。１月の和太鼓体験では体験会をしていない時間は演奏を行い、通りすがりの方にも興味を持ってもらい、参加してみたくなるような工夫をしました。

初めて太鼓を叩いたという方も多かったのですが、実施後のアンケートやイベント終了後に直接「楽しかった」と言ってもらえたことや、このイベントをきっかけに和太鼓部について興味を持ってもらえたことでプロジェクトの当初の目的を達成することができたと思います。

今回の取り組みを通して、普段中々接することのない子どもからお年寄りまで、幅広い年齢の方々と和太鼓を通して交流することができたことはとても貴重な経験だったと思います。当日スムーズに運営するためには、事前準備の段階で自身の役割を把握することや情報を全員で共有しておくことが欠かせないということを実感しました。また、イベント本番までに何をすればよいのかを考えて、逆算して行動する大切さを学びました。一方でスケジュール通りにならないことや想定外のトラブルが起こってしまった時に、柔軟に対応していく必要もあると分かりました。

今後の展開

今回のプロジェクトを通して、和太鼓部では普段行っていなかった和太鼓体験会などの演奏以外の活動を行うことができました。今回の活動が、和太鼓を少しでも知ってもらえるきっかけになったのではないかと思います。

来年度からも、この活動で苦労したことや学んだことを生かして部活動内でも、和太鼓体験会など演奏以外の活動を行っていきたいです。

イベントの様子１

イベントの様子２

イベントの様子３

学まちチャレンジ！プロジェクト

SUUMOと連携した山科区の魅力発信動画の制作

報告：山科区役所×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは、山科区役所および株式会社リクルートの住宅情報サービス「SUUMO」と連携し、山科区役所が実施している移住・定住の促進に関する取組として、山科地域の魅力を伝える動画を制作しました。特に山科に移住しようと考えている世帯に対して、実際に住む際の参考となるような「住民のあたたかさ」をテーマに制作しました。制作した動画はWEBサイト「SUUMO」の山科区特設ページに期間限定で掲載されました。

プロジェクトの成果と学び

【山科の魅力発信動画の制作】

山科の魅力発信動画では、「SUUMO」のデザイナーと研修を行い、デザインやブランディングを学んだ後に、山科の魅力をどのように伝えていくかについてグループディスカッションを行いました。今回の動画では、山科に住んでいる人がどのような夢や希望をもって暮らしているのかをスケッチブックで表現してもらい、インターネットでは見つけることができない生の声を届けることをコンセプトとして制作を行いました。地元の飲食店や公共施設、医療機関、商店会など山科地域の賑わいを担う団体にご協力いただき、これまでにない山科像の発信を行うことできました。

【山科の夢のつぶやき】

動画制作に並行して、WEBサイト「SUUMO」の山科区特設ページに区民の方々の夢を表示するコーナーを設置するため、街頭インタビューや、山科地域で行われた清水焼の郷まつりや京都山科メディカルフェスティバルなどに参加し、イベント参加者や運営者にヒアリングを行いました。合計100名の区民の方々の夢を聞くことができました。

【学んだこと】

プロジェクトを進めるにあたって、情報共有が不十分で関係者に迷惑をかけてしまう場面もありました。プロジェクトを円滑に進めるためには取材する際のマニュアルを作成することや定期的に集まることで情報共有やメンバー同士の意思疎通を図ることが必要だと学びました。

今後の展開

反省点としては山科区を調べる時間がまだ足りなかったように感じました。山科区の魅力をより伝えるために今後も定期的に山科区で街歩きをしようと考えています。加えて山科区に住むより幅広い世代の方々に取材することも必要だと考えています。

今回の動画制作はあくまで多くの人に山科の魅力を伝える際の入り口であり、動画配信と併せて他の方法や様々な団体との連携を模索していく必要があると感じました。

今回のテーマは山科に住む人がテーマでしたが、地域住民の方々の思いや熱意をもっと引き出す必要があると感じました。そのため、ヒアリングのみならず一緒に活動などに参加し、その方が抱える葛藤や歴史を知る必要があると考えています。

京都橘大学監修ver.

山科の魅力発信動画

動画のリンクはこちら

取材の様子

学まちチャレンジ！プロジェクト

山科地域の魅力企業を発信するマルシェ＆オーナメントワークショップ

報告：京都信用金庫山科支店×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは、京都信用金庫山科支店（以下、京信という）と連携し、山科地域ならではの産業から地域活性化を目指すプロジェクトを計画実施しました。

山科にはコーヒー豆や焼き芋、アート作品、お菓子などを販売する障がい者福祉団体が多く存在し、それは地域の魅力となっています。このような商品を山科地域の住民に提供することで事業所やその取り組みを紹介し、新しい発見をしてもらいたいと考え、イベントを計画しました。

具体的には、山科地域の魅力企業として、障がい者の雇用を行い、いきいきと社会参画できる環境づくりに取り組んでいる企業を学生と京信が候補を出し合いました。その結果、京都市やましな学園（就労支援B型）と株式会社カイコウ（就労支援B型）に依頼し、2022年12月21日に実施された本学のイベント「冬灯夜」にクリスマスマルシェとして出店していただきました。また、同時開催で学生と京信によるオーナメント作りのワークショップを行ないました。

＜クリスマスマルシェ＞

足を運んでくださった方々に、ホットワインやコーヒーの無料提供や焼き芋、しおり、石鹸リースを販売しました。

＜オーナメントワークショップ＞

クリスマスマルシェと同時開催で、オーナメント作りワークショップを行ないました。また、イベント中に設置されたクリスマスツリーに参加者の作ったオーナメントを飾りました。

プロジェクトの成果と学び

＜クリスマスマルシェ＞

山科地域の障がい者の方々が手掛けた商品を手に取ってもらい、京都市やましな学園と株式会社カイコウについて知ってもらう場を創出することができました。反省点として、どのような商品を扱っているかどういう活動なのかについて、分かりやすい説明を入れることでより理解していただけたのではないかということが挙げられました。

＜オーナメントワークショップ＞

オーナメントワークショップは参加者に透明のオーナメントの中に綿やスパンコールなどを入れてオーナメントを作ってもらいました。65組の参加者に130個ほど作ってもらうことができました。

今後の展開

今回の取り組みを通して京都市やましな学園と株式会社カイコウの取り組みを少しでも知ってもらえたのではないかと思います。今後は形を変えながら京都市やましな学園や株式会社カイコウをはじめ様々な山科の魅力を知ってもらい、地域との関係を深め、発展させていく仕組みを作る必要があると考えています。

オーナメントづくりの様子

準備の様子

マルシェの様子

学まちチャレンジ！プロジェクト

子育て世代の交流を目的としたものづくりイベントの実施

報告：醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

プロジェクト内容

本プロジェクトは伏見区醍醐地域にある醍醐いきいき市民活動センターにて、周辺地域の子ども・子育て層に向けた、子育ての情報共有や悩みを話せるような居場所イベントを実施することを目的としています。

醍醐いきいき市民活動センターへの最近の課題についてのヒアリングでは、「高齢者の利用が多い」、「子育て層にも利用してもらいたい」ということが分かりました。現状では伏見区醍醐地域の子育て層向けのイベントが少ないため、子育て層に向けた居場所イベントを実施し新たな発見や情報共有の場になれば良いのではないかと考えました。また、これは伏見区第２期基本計画の取組方針２「子育て家庭や子ども・若者が安心して過ごせる居場所づくり」にも合致すると考えました。

そこで、親子で楽しむことができ、親同士で交流し子供同士も遊べるような場所を提供するために「親子でつくるファミリーハンドメイドパーティ」と題したイベントを企画しました。このイベントでは「ハンドメイドブース」と「ほっこり喫茶ブース」の２つのブースを用意しました。「ハンドメイドブース」では、プラバン・リース・エコバック・手形アート・ダンボール迷路を楽しめるブースを設けました。「ほっこり喫茶ブース」では、紅茶・珈琲を楽しみながら親同士や学生、施設の方とお話をし、子育ての情報共有や悩みを話せるようなブースを設けました。

プロジェクトの成果と学び

12月17日、１月28日の２日間の実施で、のべ57名の方に参加していただきました。１回目に参加してくださった方が２回目も参加してくださったことがとても嬉しかったです。

参加者からは「馴染みやすい雰囲気がありゆったり過ごせた」「どのブースも子供たちが楽しめる企画だった」「思い出になった」という声をいただきました。

コロナ禍で人との交流が少なくなってしまった方も親同士や施設の方などとの交流する機会が新たな居場所を作ることにつながるのではないかと考えます。また、醍醐いきいき市民活動センターのSNSを広めることができ、その結果、新たなイベント情報や施設の情報などが共有され、施設利用のリピーターを獲得することにつなげることができました。

このプロジェクトを通して、地域の施設の方と交流することで、今まで知らなかったまちづくりの仕組みや、地域イベントを知ることができ、さまざまなイベントに参加させてもらうきっかけになりました。

次に子育て層の親子と関わることで親御さんが今どのようなことについて悩み、未来にどのような期待をしているのかということを知ることができました。

今後の展開

参加者の声から得た課題は、コロナ禍でいろいろなイベントが中止になっていくことから、親子で過ごす居場所がだんだんと少なくなってしまっていることでした。いただいた意見から、小規模のイベントを各地域で行うことがいいのではないかということを考えました。これにより人を分散でき、子育て層の方の悩みも改善できるのではないだろうかと考えます。

また、醍醐いきいき市民活動センターでは子育て層の利用者が少ないという課題があります。そこで子育て層の方も参加したいと思ってもらえるようなイベントを開催することで世代を超えた交流が生まれ、課題の解決につながるのではないかと考えています。

イベントの様子１

イベントの様子２

イベントの様子３

卒業生へのインタビュー事業

学生時代の課外活動から

卒業生の学びの見える化

地域連携センター

地域連携活動の学びを見える化する

本学が採択されている京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として、地域連携活動の意義を可視化するために本学の卒業生にインタビューを行いました。この取り組みでは、在学中に積極的に地域連携活動に取り組んだ卒業生に対するインタビューを行い、その学びの成果について考察し、当事者の語りから、「実践活動を通した学び」の意義を考察することを目的としています。本年度は、歴史学科（１名）、歴史遺産学科（１名）、児童教育学科（１名）、現代マネジメント学科救急救命コース※（１名）の卒業生に対して、大学生時代の生活や地域連携活動にかかわることになったきっかけ、現在の職業にその経験がどのように役立ったのかについてインタビューを行いました。
※卒業生の在籍時（現在の救急救命学科）

インタビューで当時を振り返る

インタビューでは、当時かかわっていた先生を交えて、地域連携活動に参加することで得た学びや、それが今の仕事にどう活かせているのかなどについて質問しました。

今回のインタビューでは、学生時代に行った地域連携が現在の職業に直結しているケースもありました。例えば、児童教育学科の卒業生は学生時代に、授業で子ども子育て支援を行う地域団体の話を聞いたきっかけにボランティアなどに参加し、体感で地域問題を知り、学生の立場で何ができるかを考える経験があったそうです。その経験から、将来も学生時代に培った経験を活かした仕事がしたいという気持ちが芽生え、様々な経験を経て、現在は山科醍醐地域の子ども・子育て支援の前線を行くNPOに所属されています。

また、他のインタビューでは、歴史学で培った情報収集や資料作成、現場へ出向き調査するなどの学問のノウハウが仕事に活きている実感があるという話もありました。

今年度のインタビューでは、共通して地域連携活動を行う際に「相談できる仲間や教職員がいる」ことが特徴的でした。大学生が地域に飛び出し活動を行うことは、重い責任が発生し、それがプレッシャーとなり不安になることが多くあるようです。その時に、一緒に考えていく仲間やアドバイスをくれる教職員の存在が振り返って重要であったということがインタビューから聞き取ることができました。また、大学の経験や思い出が、仕事を行う上でのモチベーションにつながっていることがわかりました。

今年度で２年目の事業ですが、卒業生のインタビューから地域連携活動に対しての一定の満足度があることがわかってきました。これも長年にわたり本学が地域連携活動を行い、受け入れていただく地域住民・団体の方との関係性が少しずつ構築されてきているからかもしれません。一方、学生が地域連携活動を行う中でより充実していかなくてはならない課題もあり、引き続きインタビューを行っていきます。

インタビューの記事は、下記のページでご覧いただけます。
URL：
https://tachibana-kyoyaku-gakumachi.tachibana-u.ac.jp/interview/

京都薬科大学との連携事業

共同学生団体 ME-ME

東野公園での「景観喫茶」の実施

本学学生×京都薬科大学学生

共同学生団体 ME-ME について

共同学生団体ME-MEとは、京都橘大学と京都薬科大学が連携し、2020年に発足した団体です。大学生が主体となって、イベントを企画運営し、山科・醍醐地域の活性化を目指して活動しています。

「景観喫茶」の実施

「景観喫茶」とは、公園や寺院など人が集まる場所でお茶を飲みながら会話や読書を楽しむ、中国・成都の屋外喫茶文化である「茶座」をモデルにしたものです。

今年度は東野公園（京都市山科区）にて７月31日と11月12日の計２回開催しました。株式会社ビバと連携し、利用者が年々減少している東野公園を地域住民に活用してもらうきっかけづくりにすること、京都市における公共空間利用の新しい在り方の実践の場とすることを目的として実施しました。また、子ども、子育て世代、高齢者、地域の若者など幅広い層を対象とし、山科・醍醐地域住民の方に地域の居心地の良い景観や魅力を再認識してもらうことを目指しました。

椅子やテーブルを出してお茶を提供するだけでなく、子どもと学生スタッフが交流しながら協調性を学ぶためのフィンガースポーツ「オニム」や風船バレーボール、山科区の伝統産業である京焼・清水焼を知ってもらうための上絵付けワークショップ、普段は気にしていない公園の魅力の再発見や季節を感じてもらうための草花ビンゴなど、多くの人に楽しんでいただけるように、様々な企画を用意しました。そして、夏の景観喫茶では約30名、秋では約60名の方に参加していただけました。

今までは高齢者の参加が多く、ゆったりと落ち着いた雰囲気のイベントでしたが、今回は参加者の中でも特に子どもが多かったため、走り回って遊んだりと公園という場所を活かすことができ、とても賑やかなイベントになりました。また、参加した方からは「普段、関わる機会のない大学生と交流できて楽しかった」「いつもは抜け道として東野公園を利用していたが、ゆっくり滞在することで景観の良さに初めて気づいた」「子どもが元気に遊べるようなイベントをもっと開催してほしい」という感想をいただきました。

今後の展開

主催者である学生スタッフと参加者との交流、グループで参加された方のグループ内での交流はありますが、イベントで初めて出会った方同士の交流はあまり行われていないため、新しいつながりができるような仕組みを考え、工夫していきたいと考えています。

山科・醍醐にある公共空間の新しい活用方法を提案し、地元住民の方が地域の魅力を再発見できるようなイベントをこれからも実施していきたいと思います。

京都薬科大学との連携事業

市民向け共同公開講座

京のやくたちばなし ～健康で豊かに暮らすコツ～（全3回）を開催

本学と京都薬科大学が、①両大学の知的資源の社会還元、②山科・醍醐地域の住民への両大学の存在感の向上、③両大学の交流促進を目的として、共同で市民向けの公開講座「京のやくたちばなし」（全３回）を昨年度に続き、開講しました。

昨年度は、比較的年齢の高い方向けのテーマの講演であったため、今年度は幅広い年代の方、特に子育て世代層にも興味を持っていいただけるよう、ターゲットとなる世代を変更し、以下の通りのテーマで、開講しました。

第１回「身近にある健康サポートのやくたちばなし」
日　時：2022年９月18日（日）
参加者：85名（対面34名・オンライン51名）
・ホントに様子見でいいの？その熱、その脈、その血圧！
　講師：岡田　純子（京都橘大学 看護学部看護学科　准教授）
・かかりつけ薬剤師・薬局って？～薬や健康についての「なんでもよろず相談所」～
　講師：今西　孝至（京都薬科大学 薬学教育系臨床薬学教育研究センター　講師）

第２回「こどもの健康に関するやくたちばなし」
日　時：2022年10月23日（日）
参加者：52名（対面11名・オンライン41名）
・学童期の子どもたちへの運動のススメ～低学年から始める子どもロコモ予防～
　講師：安彦　鉄平（京都橘大学 健康科学部 理学療法学科　准教授）
・子どもにお薬を上手に飲んでもらうコツ
　講師：豕瀬　諒（京都薬科大学 医療薬科学系臨床薬剤疫学分野　助教）

第３回「こころを健康に保つやくたちばなし」
日　時：2022年11月27日（日）
参加者：102名（対面41名・オンライン61名）
・ストレスは道しるべ
　講師：石山　裕菜（京都橘大学 健康科学部心理学科　助教）
・心の苦しみに効くクスリとしての仏教
　講師：岸野　良治（京都薬科大学 基礎科学系 一般教育分野　講師）

今年度ターゲットとした世代の参加人数は増加、家族連れでの参加グループの姿も確認することができました。ターゲットに沿ってWEB広報など告知手法を工夫したことも要因と推察できます。

受講者満足度については、５段階の評価で「５」または「４」を回答した方が９割以上と高く評価される内容であり、①の目的を果たすことができました。

「大学を身近に感じるか」の質問に対しては、全３回平均74％の方が「とても感じる」「やや感じる」と回答され、②の目的をさらに向上するきっかけとなりました。③についても講座の実施を通じて教員や職員同士の交流、知識交換等により目的を果たすことができました。

次年度は年間講座回数を４回に増やし、受講者数増、両大学の交流を促進していきます。

京都薬科大学との連携事業

大学の垣根を超えたチーム医療教育

京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育を実施!

看護学科４回生×理学療法学科４回生×
作業療法学科４回生×京都薬科大学５回生

12月15日（木）、京都薬科大学（京都市山科区）で、多職種連携教育（IPE：Interprofessional　Education）を実施しました。これは、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成を目的として行われ、本学からは看護学科、理学療法学科の学生が、京都薬科大学からは薬学部の学生が参加しました。当日は、看護師・理学療法士・薬剤師の３つの立場からシナリオ事例に沿って、患者さまや患者さまを取り巻く環境についての状況把握や介入の仕方について議論をしました。第１部では、学科ごとのグループで、それぞれの職種でどのように患者さまの状況をとらえ、向き合うかを討論しました。第２部では、学科混合のグループで各職種の観点の違いや、介入できる点・介入してほしい点などを共有し、具体的にどのように協働できるか議論を深めました。第３部では、グループごとに意見をまとめ発表をしました。

IPE研修の目的は、異なる医療教育を受けている学生が、垣根を越えて学び・話し合うことを通じて、それぞれの職種の強みや弱みを知りチーム医療に貢献することです。2016年度から始まったこの研修は本学看護学部と京都薬科大学薬学部で実施されました。今年度で７回目となり、本学からは看護学部に加え健康科学部理学療法学科、作業療法学科も参加しています。参加した学生たちは、各職種における観点の違いに理解を深め合いながら、何が患者さまにとってより良いのかと議論をしたり、専門的な用語や見解に質問し合ったりする様子がみられ、活発な研修となりました。

＜プログラムの詳細＞

■当日のスケジュール

時　間	内　　容
12：30	受付開始
12：45～12：55	ガイダンス，事前アンケート回収
13：00～13：50	**【１部】同学科 SGD（50 分）**
13：50～14：00	移動・休憩
14：00～14：20	**グループ発表（１G 各３分）**
14：20～14：30	移動・休憩
14：30～16：00	**【２部】学科混成 SGD（90 分）**
16：00～16：10	移動・休憩
16：10～17：00	**１G各５分発表・５分質疑**
17：00～17：30	講評，事後アンケート記入

Ⅱ
地域連携活動

地域連携活動

—大学の研究にふれてみよう—

たちばなサイエンスデー 2022

全学科 + 有志学生 + 学生団体（まちづくり研究会・TURF）

活動報告

2022年７月30日（土）、京都橘大学にて『たちばなサイエンスデー2022』を開催しました。本イベントでは「大学の研究にふれてみよう」をテーマに、15学科15ブース、２学生団体２ブースを設置し、小学１年生から６年生を対象にブースごとに趣向を凝らした内容でさまざまな体験やものづくりを実施しました。

各ブースでは、担当教員と学生が運営にあたり、児童は学生たちとコミュニケーションをとりながらさまざまな取り組みを行いました。参加した子どもたちは、一日を通してとても楽しそうに過ごしており、保護者からも「子どもが楽しめて良かった。」とのお声を多くいただきました。

また、ブースの運営に携わった教員や学生にとっても、子供たちや保護者から気づきを得ることができ、地域への貢献と学生の学びにつながるイベントとなりました。

参加児童数：のべ491名

出展内容一覧

出展内容	担当者
お話玉手箱　登場人物になって手紙を書いてみよう！	辻本　千鶴　（日本語日本文学科 教授）
カブトムシの人気のひみつ ～むかしの新聞からわかること	後藤　敦史　（歴史学科 准教授）
仏足跡（ぶっそくせき）スタンプでマイバッグをつくろう！	小林　裕子　（歴史遺産学科 教授）
SDGs（エスディージーズ）って何だろう？ ～ゲームとクイズで楽しく学ぼう！	佐久間　浩司（国際英語学科 教授） 北林　利治　（国際英語学科 教授）
甲骨文字を使って、オリジナルキーホルダーや判子を作ろう	池田　修　（児童教育学科 教授）
あなたはやりくり上手？カレーの材料を集めよう！	矢口　満　（経済学科 教授）
ゲームに挑戦！マシュマロチャレンジ ～チームワークを学ぼう	丸山　一芳　（経営学科 准教授）
かんたんプログラミングで自動運転車を走らせよう	吉川　寛樹　（情報工学科 助教）
あなたも小さな建築家！すてきなお家を設計しよう	河野　良平　（建築デザイン学科 准教授）
聴診器をつかって心臓の音をきいてみよう！	伊藤　弘子　（看護学科 専任講師）
モノの見え方のふしぎ ～こころで変わる見え方・感じ方	前田　洋光　（心理学科 准教授）
からだと運動の不思議を体験してみよう	小田桐　匡　（理学療法学科 准教授）
ゲームでわかる！ひとのからだの不思議	原田　瞬　（作業療法学科 助教）
科学にふれて君もハカセ！？	所司　睦文　（臨床検査学科 教授） 大澤　幸希光（臨床検査学科 専任講師）
きみも救急隊員になれる！ 身近なものでケガをしている人を助けよう！	杉木　翔太　（救急救命学科 助教） 郷田　爽真　（救急救命学科 助手）

地域連携活動

世代を超えた地域コミュニティ創造の場

『たちばなこども食堂』開設

たちばなこども食堂実行委員会 + 有志学生 + げんKids ☆応援隊

取り組みの目的

2022年12月18日（日）、京都橘大学にて『たちばなこども食堂』を開設しました。この『たちばなこども食堂』は、食を通じて対話を重ね、世代や立場を超えたコミュニティを創出することを目的に、今回初めて実施した取り組みです。本学の食堂を運営する京都橘学園生活協同組合の協力のもと、地域のこどもたちやその保護者の方々に、お弁当を１個200円で提供し、合計販売個数は174食でした。

こども食堂とは、「こどもが１人でも利用できる無料または低額の食堂」です。2012年がはじまりとされており、開設当初は「こどもの貧困対策」の１つとして広がりをみせましたが、いまでは、大きな目的に「地域づくり」があります。

一方で、本学も教育・研究の推進とともに、地域コミュニティの活性化も大学の果たすべき重要な役割と捉えています。コロナ禍で失われてきた交流の機会を少しでも取り戻し、地域のにぎわいづくりの一助となればという思いで、このたび『たちばなこども食堂』を開設することとしました。

活動報告

当日は、本学の発達教育学部児童教育学科の学生団体『げんKids☆応援隊』が、地域のこどもたちに向けて実施する「クリスマス企画」も同時に開催し、地域の方々が楽しめるイベントとなりました。

クリスマス企画では、クリスマスカードやサンタの帽子づくり、ビンゴ大会などを実施しました。未就学児から小学生まで、幅広い年代のこどもたちが参加し、あちこちで元気な声と笑顔溢れる和やかな場となりました。

参加した保護者の方は、「京都橘大学の大学祭で以前実施されていた“ちびっこランド”に参加したことがあり、楽しかったことを覚えています。今日も家族みんなで仲良く楽しめ、とても良い時間になりました」「お弁当が200円ととても安く、ボリュームもあって良かったです。こういう機会はありがたいです」と話されました。こどもたちは、「大好きなハンバーグが入っていて嬉しかった」「すごく美味しくておなかいっぱい」と笑顔で話しました。

『たちばなこども食堂』実行委員長であり、発達教育学部児童教育学科の倉持祐二教授は、「こども同士の交流はもちろんですが、保護者同士のつながりも大きな目的です。今後は、山科でこども食堂を実施している地域の方とも連携しながら、地域交流の場としてより良い運営のカタチを模索し、継続に向けて進めていきます」と話しました。

地域連携活動

地域の多文化共生社会に向けて

山科警察署職員向けの英会話教養講座

国際英語学部 国際英語学科教員 + 有志学生

経緯と概要

国際英語学部は、山科警察署からの依頼を受け、2017年以来、同署職員向けに、専門性のある英語教養講座を実施しています。きっかけは、同署と本学部のニーズの一致でした。京都・滋賀を訪れる国際観光客数は益々増加傾向にあり、京都駅から一駅の山科地域にある同署も、旅行中トラブルに陥った国際観光客に対し、英語で対応することに迫られていました。一方、本学部は、１年間の留学を終えて帰国した３回生の英語力と学習意欲を維持するため、彼らがアウトプットできる機会を求めていました。2019年までの講座では、全10回（50分/回）の講師を本学部の外国人教員および留学からの帰国学生が務め、遺失物・事故・盗難などに遭った国際観光客に対して、どのように対応するかが説明されました。３年間で約50名の警察官が受講し、両組織にとって実り多い結果をもたらしました。その後、教授方法や教材の見直しが検討され、講座継続に向けて動き出していたところ、新型コロナウイルス感染症が蔓延したため、2020年と2021年は実施を控えました。2022年に山科警察署から再び要請があり、講座が再開されることになりました。2022年12月から2023年２月までの全６回（100分/回）実施し、のべ38名の方が参加されました。

取り組みの狙い

2022年に再開された講座は、大学の第３ミッションである「地域貢献」に焦点を当て、地域の持続可能な発展に寄与することを目指しました。まず、警察官受講生に「地域の持続可能な発展に向けて、なぜ多文化共生に到達しなければならないのか？なぜ国際観光客や外国人居住者に対しスマートな対応が求められるのか？」を理解してもらった上で、実践的な英語知識の移転が実行されました。外国人教員２名は「文化の違いによるハプニング」を自らの実体験をベースにユーモラスに語り、受講生にリアルな状況を想定してもらった上で、英語でのロールプレイやディスカッションを課しました。国際観光を担当する日本人教員は、「急速に進む少子高齢化が地域にどのような影響を及ぼすか？対策としての観光振興や労働力輸入において、地域住民はどのように振る舞うべきか？」を丁寧に解説しました。一方通行の知識移転ではなく、具体的な問題を提議してディスカッションしてもらうことで、知識の根付きを狙ったものです。学生は、アシスタントを務めており、毎回の講座では2～3名が、全6回を通して合計10名が参画しています。

これまでに学生が得た成果

学生には「アドバイスするあなた方が、オロオロしていたら、恥ずかしいですよっ！」と発破を掛けています。彼らは、警察官受講生に有効な助言をするために、教員との事前打ち合わせに積極的に参加し、淀みなく英語フレーズを話すために練習し、また、必要な知識を入手するために懸命にインターネット調査等に励みました。こうしてインプットとアウトプットを繰り返すことによって、参画した学生は、警察官受講生以上に、多文化共生社会到達に関する講座内容を、しっかりと根付かせることができました。

地域連携活動

「京の台所」の本来の姿を伝える

錦市場商店街の価値発信プロジェクト

現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科　平井健文ゼミ

活動の概要

錦市場商店街は、「京の台所」として親しまれる一方で、近年では観光者の急増や老舗の廃業など様々な変化にさらされています。特に、錦市場が「食べ歩き」の場として認知され、またそうした商品が多く販売されるようになったことは、利用者のマナー問題や常連客離れなどを引き起こすことになりました。そこで、観光者のマナー改善や錦市場の本来の姿を発信することを企図し、2020年度より京都錦市場商店街振興組合と平井ゼミが協働してこのプロジェクトに取り組むことになりました。

これまでの活動の経緯と狙い

2020年度は直接的なマナー対策に取り組みましたが、その後、間接的かつ長期的な取組みとして、錦市場において質の高い観光経験を提供することが、結果的に観光者のマナー改善につながるのではないかという方向性が示されました。そこで2021年度はその基盤づくりとして、錦市場の地域資源と歴史文化を可視化する「フェノロジーカレンダー」（生活季節暦）制作に取り組み、一定の成果を生みました。そこで2022年度は、これまでの成果をブラッシュアップしつつ、それを対外的に発信することを狙いとしてプロジェクトを進めました。

2022年度の成果と総括

前期は、学生主体のフィールドワークとワークショップ形式の聞き取り調査を通して、錦市場の本来の姿や現在の課題はどのようなものか、グループごとに理解を深めてそれを全員で共有しました。後期は、前期の調査と前年度の成果物（フェノロジーカレンダー）を参考にして、①対外発信ツールとしてのリーフレットの作成、②そのリーフレットの活用方法の提案という２つのテーマに取り組みました。リーフレットのコンテンツの検討や、活用方法の提案に至るまでのグループワークの運営は、学生自身が主体的に担いました。

リーフレットは、『京都の大学生が思う、錦の楽しみ方を一枚にまとめました』という題で無事に発行されました（写真参照）。学生が調査を通して考えた／学んだ、錦市場を楽しむ心得やモデルコース、また商いの文化や四季折々の資源などが盛り込まれ、充実した内容になりました。リーフレットの活用方法についても、宿泊施設との連携、シニア層へのアプローチ、学校教育への展開という具体的な３つの提案を示すことができました。その内容は、最終成果報告会（本学同窓会淳芳会行事の一環として実施）で京都錦市場商店街振興組合の方々に報告し、高い評価をいただき、今後は同組合の中で活かしていただくことになっています。

今年度のプロジェクトは、社会調査の結果を自らで解釈してアウトプットとして示すだけに留まらず、それが一般向けのリーフレットという形あるものに結実したこと、加えて、自主的に議論を重ねた結果に対して高い評価をいただけたことで、学生にとっても有意義で充足感のあるものになったと考えています。

最終成果報告会での発表の様子

プロジェクトの成果物（リーフレット）

地域連携活動

—大学生が提案するアップサイクル体験—

エターナリープロジェクト

現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科　木下達文ゼミ

共同研究プロジェクトの概要

京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の木下達文ゼミでは、卒業研究とは別に共同研究プロジェクトを実施しており、座学と実践学とをバランス良く学習させています。今回のテーマは、いくつかの事業企画の中から近年世界的に課題となっているSDGsが対象となりました。中でも本プロジェクトでは、学生達の身近であるゴミの問題が取り上げられ、とくに「衣料ロス」に焦点を当てることとなりました。ものを長く使うという思想は、京都の伝統産業にそもそもあり、そうしたものづくりの現場を調査した上で、テキスタイル関係者とのコラボレーションから、簡単にできる衣料のアップサイクルプログラムを検討し、京都の中心街で体験ワークショップを実施しました。

取り組みの経緯や狙い

本共同研究プロジェクトの狙いは、企画から制作までの研究実践活動を通じて、とくに学生に足りない社会人基礎力を向上させるとともに、実社会で役立つ基本的なビジネスの知識やノウハウを体験的に学ばせることです。学生が自らテーマを決め実施する方法をとっており、ゼロベースから企画・研究・制作を行うことから「クリエイティブ・ラーニング」と称しています。また、最終的な成果は、一般でも通用するレベルのクオリティを目指しており、社会的な評価を得られることも目標としています。

具体的な成果と実績

「エターナリープロジェクト」では、若い世代がモノを大切にする工夫や伝統産業・技術の重要性について知るきっかけをつくり、社会課題解決に向けての意識向上につなげることを目標に立ち上げました。若い世代向けに事前に２月からInstagramを立ち上げ、定期的な情報提供や関連イベントへの参加を行うことで、フォロワーを1200にまで伸ばしました。イベントは、2022年10月23日にゼスト御池の河原町広場にて、「AI時代における手仕事の価値～ものを大切にするエターナルな社会構築に向けて～」と題するトークセッションを実施するとともに、アップサイクル体験イベントでは「Tシャツの染色体験」「ワッペン付け体験」「古着を使ったエコバッグ制作」「風呂敷を使った包み方講座」を開催しました。また、併せてフィールドワークの成果としてものづくり事業者の紹介を兼ねた展示を行いました。学生や参加者にとっては、ものづくりやコミュニケーションを通して、楽しみながら環境問題やSDGsと向き合うことができる有意義な時間となりました。

エコバッグ体験

染めの実演

ものづくり事業の展示

地域連携活動

山科の地域資源を活かしたあかりイベント

「七夕陶灯路 2022」の実施

社会・工学系学生団体 まちづくり研究会

山科地域の活性化を目的としたあかりイベント

山科の地域資源である「京焼・清水焼」を活かしたあかりイベント「七夕陶灯路 2022」を開催しました。このイベントは、伝統産業の振興や地域住民が交流する場の創出などを目的に実施しています。

今回で14回目となるテーマは、「百鬼夜行」です。山科地域の魅力・課題をテーマにした妖怪が練り歩く様子を京焼・清水焼を使って表現しました。妖怪たちのデザインは、学生が山科の課題（少子化や観光資源の活用など）をモチーフに考案し、清水焼団地の職人さんに描いていただいたもので、山科地域の「職人」という資源を強調し、更なる魅力の再発見に挑戦しました。

山科地域がより魅力的になるあかりイベントへ

2021年度は、新型コロナウィルス感染症の影響で、学内関係者のみのイベントでしたが、本年度はインターネット申し込みで地域住民の方も参加できるようになりました。外部来場者のインターネット申し込みにより、来場数が少ない可能性が懸念されていましたが、山科区役所や地域団体などの協力で400人以上の参加者が集まり、過去最大級のイベントとなりました。

陶灯路では、山科の魅力・課題をテーマにエリアごとに「妖怪疎水小町（観光促進）」「妖怪タコさらい（子ども・子育て環境の向上）」「妖怪清水焼小僧（伝統産業の振興）」「妖怪まねきナス（食文化の継承）」という名称でエリアを作りました。各ブースには、テーマにあったデザインを作成するほか、吹奏楽部や箏曲部の演奏、子どもを対象にしたスーパーボールすくい、無印良品京都山科店の出張マルシェなどが行われました。また、毎年恒例になったスタンプラリーにも、山科の魅力・課題が学ぶことができるクイズを用いた内容にし、景品として京都山科清水焼団地で生産された京焼・清水焼や各ゾーンの妖怪を集結させた団扇などをプレゼントしました。

参加者は、コロナ禍で様々なイベントが中止されるなか、久しぶりにイベントに参加したという声があがり、イベント終盤まで多くの参加者がキャンパスに残っていました。七夕陶灯路は、山科地域のまちづくり促進を目的に、地域の魅力を再確認できるようなデザインをしていますが、今回のイベントで地域住民が懐かしむように交流している姿をみて、地域が交流する居場所としての活用ができる可能性について考えることができました。

地域連携活動

小学生のプログラミング体験をデザインし、実施する

小学生向けプログラミング教室でドローンをとばす

情報工学科教員＋工学部・経済学部・経営学部 有志学生

概要

本プロジェクトは、「情報工学実践Ⅲ」という授業科目の一環として実施しました。「情報工学実践」は情報工学科がテーマごとに開講しているプロジェクト型の科目で希望者を募ります。そして、今回は特別に、他学部とともに学ぶクロスオーバー教育の一環として、工学部・経済学部・経営学部を対象に希望者を募集しました。テーマは「小学生のプログラミング体験をデザインし、実施する」です。このテーマに向け、2022年４月～７月の４ヶ月間、３学部の２回生６名がプロジェクトを進めました。

取り組みの経緯や狙い

小学生向けプログラミング教室といっても、既に色々な教室が実施されています。また、小学校でも既にプログラミング学習が始まっています。実際の小学生はプログラミングに対してどのように感じているのでしょうか？小学生のナマの声をきくために、大学の近くの京都市立大宅小学校を訪問しました。小学生たちは元気にたくさんのことを教えてくれました。学校でプログラミングをやっていることやそれがとてもおもしろいこと、苦手な人もちょっとはいるかもしれないことなど。2日間にわたる小学生へのインタビューの結果を大学に持ち帰り、それでは今回のプログラミング教室ではどのようなことをしようかと早速考えはじめました。ロボットをつかう？ドローンをつかう？いやいや、結局何のためにプログラミングを教えるのか？色々な意見が出ましたが、最終的には「プログラミングを楽しいものだと感じてもらう」ために、「ドローン」をつかってプログラミング教室を開催しようと考えました。ただ、この考えが本当にうまくいくのか？それを確認するために、再度、大宅小学校を訪ね、小学生たちの意見を聞きました。もともと、「ドローン」は小学生たちから出てきた意見の１つでした。小学生たちのOKも出て、プログラミング教室の開催日に向けての準備を進めました。

プログラミング教室の準備では、ドローンやそのバッテリの購入、その他の必要物品の購入から始まり、当日の流れの準備、チラシの準備、チラシの配布、当日の運営など、すべて学生が準備しました。事前の教室の確認も入念に行いました。実は、教室開催の前に、大宅小学校の生徒さんを招待して大学でプレ教室を行う予定でしたが、感染症流行の関係で実施できませんでした。

2022年度の成果や実績など

プログラミング教室は、「たちばなサイエンスデー」にあわせて実施しました。当日の朝、作成したチラシをもって人の集まっていそうなところに向かいました。チラシを受け取ってもらえるか不安でしたが、みんな受け取ってくれて、また、予約表にも名前を書いてくれました。というより、早い時間に満員となりました。子どもと保護者、どちらに向けてもアンケートを実施しましたが、「楽しかった！」「またやってほしい！」「もっとやりたい」などの意見をたくさんいただきました。ご参加いただいたみなさま、サポートくださったみなさま、ありがとうございました！

インタビューの様子

プログラミング教室の様子

プログラミング教室のチラシ

地域連携活動

地下鉄を明るく魅力的に！～京都のまちづくり

駅ナカアートプロジェクト

工学部 建築デザイン学科　河野良平ゼミ

駅ナカアートプロジェクトとは

駅ナカアートプロジェクトは、京都市内にある芸術・デザイン系の10大学と京都市の文化市民局と交通局で構成されたKYOTO駅ナカアートプロジェクト実行委員会が主催するアートプロジェクトです。その目的は、駅のイメージアップと活性化による京都のまちづくりへの寄与、“大学のまち京都”ならではの取組として「文化芸術都市京都」確立への一助となること、学・産・官の連携・交流を深め京都を支える人材への成長の機会を提供することの３つとなっています。

今年度の制作活動

今年度の活動は４月中旬から壁面装飾の事例調査、作品構想やテーマ決めを行い、５月頃から作品の試作を始めました。夏休み明けから10月末までに仕上げ作業を行い、11月中旬から展示期間を行いました。12月には全体発表会（ジョイント・ミーティング）が開催され、ゼミ代表者が作品の制作過程などを報告しました。今年度の全体テーマは「京都をアートで元気に」です。本学の参加は２回生河野ゼミのメンバー16名で制作に取り組みました。本学のタイトルは「Nagitsuji弁当」で、椥辻駅を利用する人が元気になるにはどうすれば良いかを考えて制作しました。具体的には、みんなが好きなお弁当の具材をモチーフとし、タコさんウィンナーをベースにお弁当に入っていたら嬉しい具を想像し、それらを作品全体に散りばめています。また、中央にはゼミメンバー全員で考案したメッセージを配置しました。この活動では、駅という公共の場所でのインテリアの在り方を考え、テーマ、色彩、構図、サイズ感や素材選択に注意しながら制作に取り組んでいます。

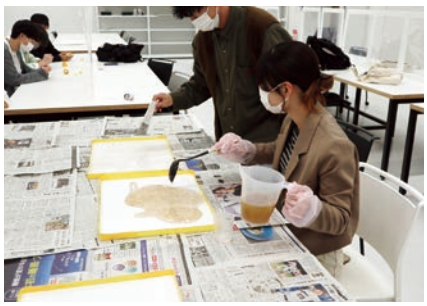
教育効果と課題

学生への教育効果として、公共空間へ作品を実際に展示する際の心構えや制作に取り組む真剣さといった心理的な側面の成長が期待できます。授業で行う設計演習の課題では得られない現実感をもって制作に取り組むことの意義は大きいと思います。また、昨年まで課題であったゼミ内でテーマを一つに絞ることの解決策として、KJ法（データを整理、分析する手法の一つ）を用いました。学生全員が納得したテーマを、予想以上にスムーズに決めることができました。課題として、今年も作品設置後しばらくして、乾燥による収縮が原因と思われる反りが発生し、作品の端部が壁面から一部剥がれました。何度か補修を行う中で、壁面への設置方法での改善策を思いついたので、来年度の設置に取り入れたいです。

KJ 法でテーマを考案中です。

図案を壁面に投射し、下地のスチレンボードに輪郭を書き込んでいます。

輪郭に沿ってマスキングテープを貼っています。



レジンの流し込み実験。
レジンに混ぜ込むラメの量を検討しています。

地域連携活動

「陰徳善事」のまち滋賀県日野町にて

近江日野商人「旧島﨑善兵衛邸」活用提案

現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科　鈴木あるのゼミ

滋賀県蒲生郡日野町について

近江日野商人には、人知れず善行を積み社会貢献を目指す「陰徳善事」という経営理念がありました。そのひとつの事例として、職人を守るために贅をつくした建築をするという伝統があり、日野商人のもっていた経済文化両面の豊かさとも相まって、全国的に見ても特に優れた日野商家建築が遺されました。町の周辺には豊かな農地が広がり、伝統野菜や畜産品を含む豊かな食文化、今も地域住民の手によって盛んに続いている祭りや伝統芸能もあります。偶然ではありますが、「すべての人々に教育を」という主旨から作られた本学の前身である私塾は、この日野町出身であった中森孟夫先生が日野町の農家の子女のために始めたものです。いわば本学の発祥の地とも言えます。

「旧島﨑善兵衛邸」との出会い

しかし日野町においても、1970年代以降、二度と手に入らない優れた伝統建築が次々と取り壊されてきました。それを少しでも食い止めようと、民間のボランティア組織「日野まちなみ保全会」が、日々大変なご努力をされています。私たちのゼミはご縁あってこの保全会の活動を知り、会が関わってきたいくつかの日野商家を見学させていただく中、折しも一般社団法人近江日野商人島﨑の家により保存活用されることが決まった旧島﨑善兵衛邸と出会いました。そして今年度、学生が活用提案を作成して発表し、町長を始め町の皆様と意見交換をする会を、この旧島﨑善兵衛邸にて開催していただきました。これを地域連携のスタート地点とし、今後はさらに現実的な活用提案をしていきたいと考えています。

学際的広がりの必要性

建造物やまちなみの保全には非常にお金がかかります。しかし現在の日本では文化に関する予算が非常に乏しく、特に歴史的建造物の維持保存に関しては、国や自治体の補助金に頼れる状況にありません。その中で価値ある建築やまちなみを守っていくには、まずは大切な文化遺産があることを町内外の人達に知ってもらう必要があります。そして経営的にも成り立ち持続的に自立できる方法を考えることが肝要です。そのためには観光学や経営学といった視点は欠かせないものです。都市環境デザイン学科は、2021年度入学生からは「工学部建築デザイン学科」となりますが、今後も引き続き、経済や経営など他学部における関連分野の先生や学生の皆さんもお誘いして発展させていけたらと願っています。

島崎邸集合写真

島崎邸座談会風景

地域連携活動

老若男女が集う憩いの場に

京都府立植物園におけるレストスペースの提案

工学部 建築デザイン学科教員＋学生

京都府立植物園について

京都市左京区のいわゆる「北山エリア」、賀茂川のほとりに位置する京都府立植物園は、1924年創立の日本最古の公立植物園です。「植物とその栽培技術を守り教育・学習・研究に寄与する」という大きな目的を担うとともに、四季の自然に触れることのできる憩いの場を、府民をはじめとする年間80万人の来園者に提供してきました。手頃な入園料で、年間パスポートもあって気楽に訪れられることから、植物を見るためだけでなく、くつろぎ楽しむ「公園」としても親しまれています。近隣には京都コンサートホールといった文化施設やおしゃれな雰囲気で知られる北山通りもあり、この周辺一帯を総合的に整備しようとする「北山エリア整備基本計画」の一角を担っています。

植物園の「創立100 周年未来構想」とともに

北山エリアの一角として、また創立100周年を迎えるにあたり、植物園本来の目的に加え、来園者の利便性・快適性を向上させ、また魅力を発信していくことが求められています。平成31年に策定された「未来構想」の中には、「他施設と連携した学生や若者が集まる仕組みづくり」も謳われています。この設計演習課題にも「若者も植物園に来たくなるような施設を提案してほしい」というご要望を植物園からいただきました。理学や農学ではなく建築デザインを学ぶ学生たちであるため、植物についての知識も無く、１回生なので建築デザイン的にもまだ未熟です。しかし若年層が魅力的と感じる休憩スペースはどのようなものか、それをご提案する意義は大きいと考えています。

他分野とも連携してさらなる教育効果を

2021年度からは、戸部博園長をはじめ植物園の技術職の方々が本学にお運びくださり、一緒に作品の講評をしてくださっています。建築教員には教えられない植物についての深い知識をご共有くださり、それが新たな建築デザインの発想にもつながるため、非常に高い教育効果を上げています。建築家はともすれば植物を単なる緑のオブジェとして扱いがちなのですが、植物の生態や環境についての知識を得ることは、自然と人間との関わりや社会の持続性が重視される今、とても重要な意味をもつと考えます。今後は、健康・心理・経済・経営などの他学部とも連携し、多様な視点から植物園の可能性を考えることができれば、さらに貴重な教育の場となるのではないでしょうか。

地域連携活動

醍醐中山団地の住民を対象に

「看護お助けたい in 醍醐中山団地」の活動

看護学部 看護学科３回生×醍醐中山団地町内連合会

活動の概要

2016年度から実施しているこの取り組みは、看護学部の正課授業「プライマリケア実習」の一環で年２回の開催していました。しかし2020年からコロナ禍で中止となっていて今回３年ぶりの再始動となりました。その間に新カリキュラムとなり、３回生の演習「生涯健やか看護学演習」となり年１回の開催に変更となりました。内容は変わらず本学看護学部の学生が、京都市営醍醐中山団地の高齢者宅を訪問し、各戸から事前に聞き取った生活上の困りごとを住民と一緒に解決・支援するものです。

地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっています。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画し、６月18日（土）に３回生（99名）に実施しました。醍醐中山団地は高齢化に伴い独居高齢者率も高く４階建ての団地にはエレベーターは設置されていないため、粗大ごみの搬出が容易ではありません。また部屋の模様替えや、風呂場や台所回りの掃除など、生活上の様々な困りごとがあると考えました。それらの困りごとに対して学生の力を活用し解決するともに、日常生活の場を観ることができ、日々の生活の話を聞かせてもらえるのではないかと考えました。学生を受け入れてくださる住民にとっては、日々の生活上の困りごとが解決し、学生にとっては家庭に上がり日常生活を 観させてもらえる貴重な学習となり、互いにメリットがあると考えました。

活動の成果

事前に棟長の方々を通じて実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は毎年30世帯弱ですが、今年度は17世帯と若干少ない参加でした。学生は依頼された作業内容を糸口に健康・体力・普段の買い物や食事など生活の様々な話を聞くことができました。在宅医療が進むなか、退院を支援するための知識としてとても学びの多い実習となりました。学生が学びになったのはもちろんの事、住民の人は「今日を心待ちにしていました。一人で大きな家具を運んだり配置替えを行うことができなかったので、とても助かりました。大変感謝しています」と話し、参加した学生は「直接困っていることを聞けて良かったです。訪問看護の勉強にもなりました」と話しました。また、醍醐中山団地の会長からは「普段できない作業を手伝っていただき、住民一同とても喜んでいます。これから、皆さんが立派な看護師さんになって活躍されることを応援しています」と学生に感謝とエールの言葉をおくりました。

地域連携活動

地域住民の方々の健康づくりに

たちばな健康相談

看護学部 看護学科

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

看護学部教員が行っている社会貢献事業の一つとして、健康支援事業があります。この事業は、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する』という目標のもとに行っています。

たちばな健康相談

たちばな健康相談は、看護学部の教員と学生が協力しながら実施しています。2022年度は、ホームカミングデーと大学祭の１つのイベントとして、身体計測（身長、体重、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、健康相談などを行いました。ホームカミングデーには約100名、大学祭には約150名の方々が参加され、健康について見つめ直していただく機会となりました。

健康相談会に参加された方からは、骨密度が測れてよかった、楽しく健康チェックができた、普段の健診にはない項目も検査できてよかった、学生の対応が良かった、丁寧に対応してもらった、楽しいコーナーだった、等、参加への満足度が高く、スタッフの対応も良かったという声をたくさんいただきました。

地域住民の健康意識向上と住民との関わりからの学生の学び

コロナ禍のため２年間開催ができておらず、また密になることを避けるためにも、広く広報することができなかったにも関わらず、予想より多くの方に参加していただき、健康を振り返る機会となったことをうれしく思います。今後、継続して開催し、年に１回の健康チェックの機会として親しまれる活動になるよう、尽力していきたいと思います。また、この相談会をきっかけに健康的な地域づくりにかかわることができればと願っています。

またこの「健康相談」には、多くの看護学生が参加しています。コロナ禍で様々な人と接する機会が減ってしまっていた学生もおり、この健康相談会が、地域という実践の場で学ぶ大切な機会となったのではと思っています。様々な年代の方々と関わり、それぞれの方に合った手の差し伸べ方、声のかけ方など、発達段階に応じた対応、失礼のない態度を学習する場となっています。さらに、保健師免許を取得する学生にとっては、健康相談が滞りなく進むようにレイアウトを考えたり、人員配置を考えたりと実践を伴った学びの場となっています。加えて、学生同士が協力し合い、先輩が後輩に教えたり、後輩が先輩に質問したりなど、他学年との交流から学び合う機会にもなっています。今後も地域住民の健康支援を通した地域の活性化と、学生の学びにつながる事業を目指したいと思います。

地域連携活動

高齢者の理解と健康や暮らしを考える機会として

生涯健やか看護学実習Ⅰで行う高齢者体力測定

看護学部 看護学科×山科区老人クラブ連合会

概要

生涯健やか看護学実習Ⅰは、「地域で暮らすさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康を支える上で必要な健康課題をアセスメントするための基礎的能力を養う。」をテーマに設定された科目です。

今回ご紹介する体力測定は上記科目の一部として、山科区老人クラブ連合会と本学看護学部との共催で行っている取り組みです。地域在住高齢者の方々には健康増進活動の機会として本学に来校いただいております。同時に学生は、体力測定をサポートしながら高齢者とのコミュニケーションを行うなど、高齢者との関りを通して様々なことを学ばせていただく貴重な機会となっています。

取り組みの経緯や狙い

本学で行う体力測定は、地域在住高齢者の健康増進活動の機会を設けたいという山科区老人クラブ連合会のご意向と、看護学部の学生に高齢者との関りを通して対象理解や健康について実践的に学ぶ教育の機会を確保したいというそれぞれの意向の合致のもと始まった取り組みです。狙いとしては科目テーマとなっている視点を踏まえ、高齢者の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解することや、高齢者の健康を支える上で必要な健康課題について考えるための力を養うこととしています。

2022 年度の成果

2022年度の体力測定は８月上旬に計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の第７波の感染急拡大を受け、急遽中止・延期を余儀なくされました。その後、感染状況を踏まえ日程調整を行い、何とか12月２日・15日・22日の合計３日間実施することができました。感染対策の視点で小規模で、演習室と大教室を利用しての実施となりましたが、学生は準備等の運営にも携わりながら、実習を行いました。実習を通して学生は、加齢に伴う様々な変化や生活の様子とその個別性を捉えたり、高齢者とのコミュニケーションの在り方を学んだり、体力や健康状態に合わせたかかわりの配慮点などを考える機会となるなど、高齢者を理解し、健康や暮らしについての実践的な学びを得る機会となっていました。今後も、この体力測定を安全に実施し、継続して運営していきたいと思います。

体力測定後の高齢者とのコミュニケーションの様子

起立能力測定の様子

地域連携活動

地域住民のチカラを借りて学ぶ

地域住民による看護学部１回生へのお助けたい演習

看護学部 看護学科×近隣住民

模擬患者へのフィジカルアセスメント演習（通称：お助けたい演習）の概要

看護学部では１回生前期から、学生同士で看護師役・患者役となって看護技術の練習を行っています。しかし、学生同士ではどうしても現実味に欠けるという現状があります。そこで毎年、フィジカルアセスメントにおける看護技術力とコミュニケーション力の向上、そして、看護師としての態度の育成につなげることを目標に、地域住民の方に模擬患者役を担っていただき、より実践的な演習を行っています。今年度も大学近隣にお住いの60～80歳代の方20名にご協力いただき、11月に模擬患者へのフィジカルアセスメント演習を実施しました。

演習での効果的な学びのための準備―事前学習と演習後の振り返り

学生はフィジカルアセスメントのための基本的な知識と技術を学んでいます。しかし例年、初対面の人を前にして緊張してしまい、思うように身体診査やコミュニケーション技術を実施することができない学生が少なからずいます。そこで学生には、模擬患者演習の事前学習として、以下のような内容を課しています。

【模擬患者演習のための事前学習内容】
1）壮年期・老年期の身体的・心理的・社会的特徴について調べる。
2）問診で確認する内容と、そのことをどのように聞くのかについて考え、まとめる。
3）バイタルサイン測定、模擬患者に実施する可能性のあるフィジカルイグザミネーション（身体診査）技術、コミュニケーションについて、実際の場面を想定して練習する。

演習の翌週には、自身の看護実践を振り返り、小グループでの意見交換を通して、「患者の訴えに応じた看護技術を安全・安楽に実施する」ということに対する自身の課題と対策を明確にする時間を設けています。経験を振り返ることによって学生は、自分ひとりでは気づけなかった情報の解釈の仕方や、患者への理解に基づいた看護技術の実践など、多くの学びを得ることができています。

演習での成果

模擬患者演習で学生は、問診や身体診査で得た情報をもとに、その患者を理解することの難しさを実感するとともに、その重要性を学びます。また、演習後に模擬患者の皆さんからいただく、「もっと大きな声でしゃべらないと高齢の患者は聞こえないよ」といったアドバイスや、「説明がわかりやすかった」、「身だしなみがきちんとしていてよい印象が持てた」といったお褒めの言葉は、確実に、学生のやる気につながっています。このように、模擬患者へのフィジカルアセスメント演習は、看護を学び始めたばかりの１回生にとって、患者の訴えに対応しながらその患者の個別性を理解するということ、そして学習意欲向上といった観点から、重要な学習の機会になっています。

地域連携活動

高齢者の健康づくりプロジェクト

高齢者健康調査を通したヘルスプロモーション活動

健康科学部 理学療法学科×野洲市地域包括支援センター

取り組みの概要

2014年度より滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として野洲市在住高齢者を対象に健康促進活動を行ってきました。年一回の体力測定会（認知・心理機能検査含む）の開催やたちばな健康体操の普及と実技指導などが主な活動です。新型コロナウイルス感染症の影響で、体力測定会は2020年から２年間実施できませんでしたが、2022年９月に再開することができました。理学療法学科３回生35名と教員５名が参加高齢者82名の身体・認知・精神機能を調査しました。

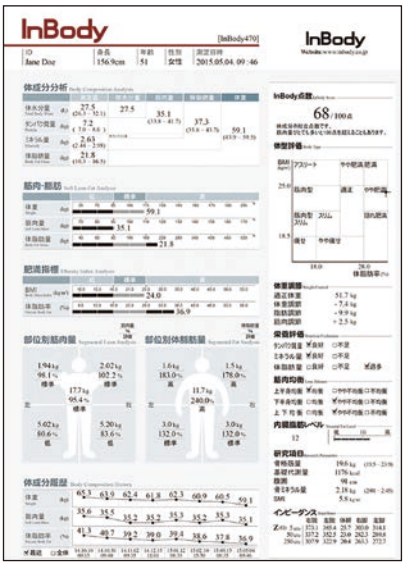
調査結果の概要

緊急事態宣言等の措置は解除されましたが、依然コロナ禍にあるため、参加者は調査期間５日間で82名にとどまりました。参加者の内訳は、例年と大きな違いはなく、70代が最も多く（55%）、80代を合わせると全体の90%を占め、性別では女性が82%と大多数を占めました。

参加者の体力は、男女ともに歩行能力や下肢筋力は全国平均を上回っていましたが、柔軟性や立位バランスは全国平均を大きく下回っていました。また、今年度の調査結果で特筆すべき点は、参加者の認知機能の低下です。2019年の調査では、認知症の疑いある高齢者は２%、認知症予備軍とされる軽度認知障害のある高齢者は21%で、認知機能に問題が認められる高齢者は計23%でした（全国調査：認知症15%、軽度認知障害13%）。今年の調査では、認知症の疑いある高齢者は４%、軽度認知障害のある高齢者は44%で、認知機能に問題が認められる高齢者が計48%とほぼ倍増していました。同一人物での比較ではないため、この３年間で低下したか否かは断定できませんが、2019年以前の調査結果と比較しても明らかに認知機能に問題のある高齢者が増加しています。この理由については明らかにできませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で社会とのつながりが希薄となった可能性が考えられます。様々な活動をとおして積極的に高齢者の社会参加を促す必要があるのかもしれません。

取り組みの成果

調査結果は、参加高齢者に返却し、参加者の年齢の全国平均と比較した結果の表を、学生が個別に説明を行いました。学生は、参加者の方との良好なコミュニケーション方法について学ぶことができました。また、測定することの難しさ、測定結果を解釈し説明をする難しさも体験できました。



地域連携活動

健やかな子どもたちの発達のために！

子どもの体力測定会

健康科学部 理学療法学科×大宅児童館

概要

2018年度より大宅児童館と本学理学療法学科が連携し、子どもたちの運動機能の健やかな発達を寄与することを目的に大宅児童館を利用している小学生を対象に体力測定会を実施しています。本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で２年間中止であったことからに、３年ぶりの開催となりました。2022年度は、小学生59名に参加いただき、本学学生24名で検査測定を行いました。

取り組みの経緯や狙い

学童期の子どもでは、体育嫌いやテレビゲームなどの普及によって外遊びが減少し、肥満の子どもの増加していることが問題になっています。また近年では、発育の偏りや運動不足、食生活が原因で骨、関節あるいは筋などの運動器に障害が生じ、運動能力が著しく低下している「子どもロコモ」が注目されています。この「子どもロコモ」は、骨折や将来のロコモティブシンドローム（要介護リスク群）のリスクが高く、健やかな成長および介護予防の観点から予防的介入の必要性が報告されています。そこで、本事業の目的は大宅児童館を利用している学童期の子どもを対象に、筋力、柔軟性、バランス能力などの運動能力と筋肉量・脂肪量などの体組成を検査し、その結果を子どもおよび保護者の方にお伝えし、子どもロコモ予防の啓発を行うことで、子どもたちの健やかな発達を支援することです。

本事業は、本学学生にとって小学生に体力測定を行う貴重な機会になります。子どもへの測定する経験を通じて、大人とは異なるコミュニケーション方法や測定方法の難しさに直面し、対象者に合わせたコミュニケーション方法を学ぶことができます。また、現代の子どもたちが抱える健康問題や運動発達について主体的に学ぶきっかけになります。

2022 年度の成果

体力測定会は、８月３-４日の２日間実施し、59名の子どもたちに参加いただきました。参加者の内訳は、小学１年生26名、小学２年生16名、小学３年７名、小学４年生８名、小学５年生２名でした（男児26名、女児33名）。検査者として、理学療法学科の教員４名と理学療法学科３回生22名、４回生２名が参加しました。

運動機能の結果は、１-２年生では新型コロナウイルスが感染拡大する前の2018年の結果と同等あるいは種目によっては上回る結果であり、コロナによる影響は少なかったです。ただし、１-２年生42名のうち９名（21.4%）が「子どもロコモ」と判定され、2018年の調査結果（11%）よりも「子どもロコモ」の割合は大きかったです。全体的には家庭、学校、児童館において感染対策を行いながらも運動する時間や機会を設けていたと推察されました。ただし、子どもによっては外出制限などの影響を強く受け、身体活動が制限され、運動機能が十分に発達していない可能性が示されました。今後も調査を継続し、山科区および大宅児童館の子どもたちの健やかな発達に寄与したいです。

地域連携活動

地域住民、京都市、大学の連携による世代間交流の創出

山科団地地区におけるヘルスプロモーション活動

健康科学部 作業療法学科×山科団地

地域のニーズと取り組みの狙いコミュニティ活性化のための多世代的取り組み

山階、西野学区には、高齢化が進行している山科団地（高齢化率：分譲住宅52.0%、市営住宅50.8%；平成30年１月現在）があります。山科団地エリアは、京都市の「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」において、大学などとの連携によってコミュニティの活性化を図るエリアに指定されています。令和元年度に、本学、京都市、山階・西野学区自治連合会が連携し、住民に対する今後の山科団地地区の在り方に関するアンケート調査を行いました。その結果、高齢者から若者まで多世代が交流することによるコミュニティ活性化が求められていることが明らかになりました。その結果を踏まえ、令和２年１月に団地集会場にて「ものづくり・健康教室」を開催しました。血圧測定、骨密度測定などの健康測定、革細工活動、タオル体操、認知症の講話など２時間にわたるイベントに約50名が参加し、こうした機会が地域の交流の場となることを再認識しました。この活動を機に地域住民同士のつながり作り、地域と大学とのつながり作りを狙いとした『京都橘大学作業療法学科「つながる」プロジェクト』を発足、令和２～４年度の山科きずな支援事業に採択され、地域活性化に向けた活動を継続しています。

学生による山科団地でのヘルスプロモーション活動

令和２年度からは、作業療法学科３回生専門科目「地域包括ケアシステム演習」と紐付け、学生と山科団地の地域住民が参加、交流するイベントを、年間４回程度開催しています。令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みリモート型での実施となりましたが、令和３,４年度は感染対策に留意しながら対面で実施することができ、これまでに延べ200名以上の住民の参加がありました。学生たちは５～６人のグループに分かれ、リハビリテーションの視点から身体運動を促す「健康体操」と、認知機能を促進する「頭の体操」を自分たちで企画、実践します。学生にとっては地域の高齢者の方々とコミュニケーションをとりながら実践することや、地域の状況を肌で感じる貴重な機会となっています。参加した高齢者の方々からは、「若い世代と交流することで元気をもらえる」、「引きこもりがちなコロナ禍において希望のもてる会でした」といった声をいただいており、有意義な世代間交流となっています。今年度からは自治会の協力を得て食品ロスに対する取り組みも開始し、対象を子育て世帯にも広げ、地域の中で多世代に渡る「つながり」を強めていくことを計画しています。

地域連携活動

オンラインものづくり教室からハイブリッドものづくり教室へ

作業をとおした高齢者と学生の交流

健康科学部 作業療法学科

コロナを機にオンラインでのものづくり教室を開始

作業療法学科では、ものづくりを通して仲間づくりや生き生きしたライフスタイルをつくってもらおうというヘルスプロモーションプログラムを2018年の学科開設時より継続してきました。2020年、新型コロナ拡大の影響で一時休止を余儀なくされましたが、2021年1月よりZoomを使ってのオンラインものづくり教室へと形を変えて継続してきました。オンラインでの開始当初は、つながらない、音声が出ないなど様々なトラブルがありましたが、高齢者たちも少しずつ操作に慣れ、これまでに「苔玉」「バスボム」「石鹸」「スノードーム」など様々な作品を作成してきました。作業療法学科の学生も参加し、オンラインものづくり教室を卒業研究の対象にしている学生もいます。

高齢者や学生が講師役に

「フロッタージュ」の回は発案者の高齢者が講師になって大学からオンラインで指導してくださいました。これは葉の上にうすい紙を置いてクレヨンや色鉛筆などでなどで葉脈を浮き上がらせるものですが、みなさん散歩していろいろな葉っぱを集めてこられました。2022年の春からは学生が講師役となって、どのように説明するとオンラインでも伝わりやすいかを試行錯誤しており、参加高齢者からも好評です。

奈良県山添村とオンラインものづくり教室メンバー宅をつないでのハイブリッドものづくり教室

そんな中、今年度は奈良県山添村で高齢者対象のものづくり教室を行うことが企画され、2022年11月と2013年1月は、山添村の公民館とオンラインものづくり教室メンバーの京都の自宅をオンラインでつなぐというハイブリッド形式で行いました。山添村の高齢者からは「なかなか若い人と会う機会がないけれど、孫のような大学生にやさしく教えてもらえて楽しいひと時だった」「京都の方たちとも交流できてよかった」「また是非やってほしい」と大好評でした。学生は、普段の学生同士のような言葉ではうまく伝わらないことを実感したり、どのように説明したらうまく伝わるのかを意識するなど年代の違う人たちとのコミュニケーションの取り方について学んだようでした。これから始まる実習にも生かしていきたいと話していました。また「作ったペンダントを見せ合いながら楽しそうに会話しておられる様子を見てやりがいを感じた」、「前回一緒に作ったハーバリウムをストラップにしてかばんにつけているのを「これ見て！」とうれしそうに見せてくれた方がいて本当にやってよかったと思った。達成感を感じた」、「ものづくりの時は高齢者の方々が全員いきいきしており自分も楽しかった」など、学生たちにとっては「作業の力」を体感する機会となったようでした。

学生が講師役となって

細かい作業は学生がお手伝い

山添村の方々に作品を披露する京都の高齢者

地域連携活動

滋賀県草津市との地域連携活動　調査データを「まちづくり」に生かす

草津駅東口での来街者調査活動

健康科学部 心理学科

「まちづくり」に必要なデータを提供する

健康科学部心理学科では、３回生配当科目として「マーケティング調査演習」を開講しています。心理学は実証的研究分野ですが、この科目は調査法などの方法論を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。心理学科での勉学を卒業後の職務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目です。このような実践の場として草津市での活動を続けています。

2022 年度の成果・実績

2015年に草津市と本学との間で結ばれた包括協定に基づく地域貢献活動として、草津市において来街者調査を実施しました。JR草津駅東口エリアにおける商業施設４店舗（商業施設「ニワタス」、「エルティ932」、「近鉄百貨店草津店」、「くさつ平和堂」）の来店者を対象とした来街者調査を実施しました。今回の調査結果は草津市がすすめている中心市街地活性化基本計画（第２期）の基礎資料にもなります。具体的な授業のスケジュールと内容は以下の通りです。

９月～10月　①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習

11月　①調査計画の立案と調査項目の作成、面接調査のトレーニング、②４店舗での調査実施

12月～１月　①調査データの整理（コーディングと入力）、②統計分析ソフトウエアによるデータ分析、③調査報告会の準備

４店舗において来店者計272名の方の面接調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の来店形態や来店目的など、②草津駅東口付近での立ち寄り箇所と購買品目、③買い物の不都合や希望するサービスなどでした。また各店舗からのご要望に応じて担当の学生たちが考案した質問紙も付加しました。

本調査の意義

調査データの収集と分析を通して学生達は店舗経営の維持のためにどのような情報が必要で、それをどのように活用して課題を解決するべきかについて学びました。店舗における品揃えやサービスの向上は店舗の利益だけではなく、地域に住む利用者が利便性や恩恵を得ることになり、広い意味での地域貢献につながります。この点も含めて今回の授業の中で得た様々な経験は今後の職業人としての能力育成に生かされるものと確信します。

成果を広く人々に伝える

成果報告のために2023年２月２日に草津市において草津市役所および草津まちづくり会社の方々、各店舗の方々、受講学生、担当教員が出席して報告会を開催する予定です。また全体の結果をまとめた調査報告書を作成し、草津市役所、草津まちづくり会社および各店舗に提出します。さらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。

エルティ932での調査の様子

近鉄百貨店での調査の様子

ニワタスでの調査の様子

地域連携活動

自治施策における

地域住民の身体能力特性マップ活用方法の仮説立案

健康科学部 救急救命学科×近隣自治会

救急救命学科では、救急医療のみならず防災・減災の授業を実施しています。コロナ禍になるまでは、救急救命学科の学生らと京都橘大学隣接小学校学区の自治会と協働して災害訓練の手伝いや心肺蘇生法の訓練などの協力を実施していました。２年間にわたり対面による災害訓練が実施できていないことから、自治会防災委員役員のみで机上・図上訓練を実施しました。

研究内容

動的バランス能力に基づく行動特性データを共有・支援に活用する仕組みの基盤づくりを目指し、今後の自治施策で重要な分野となる防災・減災施策を題材に検討しました。本共同研究では避難にかかわる行動能力特性と災害にかかわる不安特性を地域住民データとし、これらデータと住民住所や避難所等の位置情報と紐づけた地域住民特性マップを作成し、防災・減災対策への活用方法について明らかにします。

成果概要

① 地域住民の身体能力特性マップの作成

○ 山科区の大宅学区111名、勧修寺学区102名、小野学区103名を対象に質問紙配布

○ 質問紙は、能力レベル判定のための質問紙２種、避難心理に関する質問紙１種

○ マップ化可能なデータ（大宅学区57名、勧修寺学区54名、小野学区66名）を対象に身体能力特性マップを作成しました（地図上の対象者住所に能力レベル識別するシール貼付け）（図１）。

○ 本活動を通して以下知見を得ました

地域全体の住民のデータ収集に質問紙法は有用ではありました。しかし、質問紙法によるデータ収集では欠損が多く発生し、特に、能力レベル低群にその傾向が強く、データ収集方法としての課題がみえました。

② 防災訓練（図上訓練）への身体能力特性マップの適用

○ 山科区の大宅学区、勧修寺学区、小野学区の自主防災自治会メンバー50名を対象に図上訓練を実施しました（図２）。

○ 従来のハザードマップ等の環境情報に、ヒト情報となる身体能力特性マップ、及び、兒玉教授（本学健康科学部理学療法学科）との共同研究（能力レベルと避難能力の関係）で得られた情報を追加し実施しました。

○ 本活動を通して以下の知見を得ました

・環境情報とヒト情報の両情報があることで危険個所や避難支援方法など従来とは異なる視点の対策立案につながる可能性→能力レベル低群は隣接学区の避難所に避難がよいのではないか等の意見が出ました。

・能力レベル低群の対象住民を中心にその関係する周辺の人への議論が広がる可能性があります。

・上記有用性を示す一方で、能力レベルという個人情報の保護についての指摘もあり、ヒト情報の共有形態についての課題がみえました。

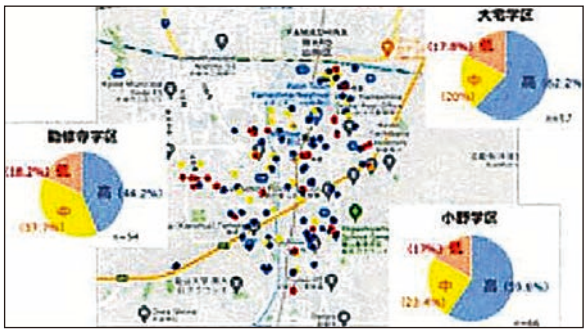


図１

図２

地域連携活動

救急救命士養成課程学生による

一次救命処置（BLS）と応急手当の普及活動

健康科学部 救急救命学科

一次救命処置（BLS）の重要性と普及活動の概要

心臓が原因で突然心停止となる人は、１年間で約7.9万人にのぼります[1)]。

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生と自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator：以下AED）による電気ショックがカギを握っています。しかし、これらの処置が１分遅れるごとに救命率は10％ずつ低下します。

現在、119番通報をしてから救急車が到着するまでの平均時間は9.4分です[2)]。救急隊を待つだけではなく、その場に居合わせた一般市民の方々（bystander）が、迅速に一次救命処置（Basic Life Support以下：BLS）を実施することで、命を救える可能性が非常に高くなります。

そこで本学科では、教員と学生が協力をして、一般市民の方々にBLSと応急手当の普及活動を行っております。

１）　公益財団法人日本AED財団;心臓突然死の現状（最終アクセス：2023.１.18）
２）　総務省消防庁 令和４年版救急・救助の現況（最終アクセス2023.１.18）

活動の狙い

本活動の狙いは、大きく分けて２つあります。

１つ目は、多くの方々にBLSと応急手当を知っていただくことです。前述のとおり、突然の心停止から命を救うためには、一般市民の方々のご協力が必要不可欠です。学校や幼稚園の先生方は、いざという時に子どもの命を救うために、知識と技術を習得することが重要です。また、子どもたちは、この活動を通じて命の尊さに触れることができます。幼いころから命について真剣に考えることで、将来のbystanderを育成することができます。

２つ目は、当学科学生の知識の定着とコミュニケーション能力の向上です。BLSや応急手当を教えている学生は、日々救急救命士になるための勉学に励んでおります。授業や実習でインプットしたことを、活動を通してアウトプットすることで、知識をより深めることができ、より確実な知識の定着に繋げることができます。また、インストラクションを行うことで医療従事者として必要なコミュニケーション能力の向上を図ることができます。

2022 年度活動実績

今年度は、山科区内のこども園や小学校の他に京都市内の保育園や中学生等を対象に、BLSと応急手当の普及活動を行いました。また、学外だけでなく、学内他学科の学生に対しても実施しています。コロナ禍もあり、まだまだ外部での活動が実施しにくい状況ではありますが、普及活動を通じて、地域住民と学生が一緒になって救命率の向上に繋がるように活動を続けていきます。

５月 ７日（土）朱一保育園 対象：職員50名 参加学生：５名
５月21日（土）京都橘中学・高等学校 対象：近隣の小学３～６年生 参加学生：５名
６月15日（水）安朱小学校 対象：小学６年生37名 参加学生：８名
６月17日（金）円町まぶね隣保園 対象：職員22名 参加学生：５名
７月 ６日（水）おおやけこども園 対象：保育士、幼稚園年長クラス 参加学生５名
11月 ９日（水）京都橘中学・高等学校 対象：中学生72名 参加学生：10名

地域連携活動

山科区近隣地域の河川における

水質解析を通じた学び

健康科学部 臨床検査学科

概要

京都橘大学臨床検査学科では地域連携活動の一環として、近隣地域の河川における水質評価項目を化学的手法により分析しております。この取り組みは、臨床検査学科の学生が地域に貢献するだけでなく、化学に対する理解を深める一助となっております。

取り組みの経緯と狙い

医療現場では化学的な知識と技術に基づいた臨床検査法が多く採用されており、学生時代からこれらに慣れ親しむことは、将来、臨床検査技師として働く上で必要と考えます。また、近年、人と動物の健康と環境の健全性を一つと捉え、これらの健全な状態を守らなければならないという「One Health」の理念が提唱されており、我々の身近にある河川が健全に保たれることは「One Health」の観点からも重要と考えております。そこで、この度の取り組みでは河川の水質調査を通じて、学生が楽しく能動的に化学的知識を修得することと、環境保全への理解を深めることを目的としております。

2022 年度の成果および実績

2022年度は桂川、高瀬川、高野川、鴨川、琵琶湖疏水、山科川、宇治川、山科音羽川の８河川10ヶ所で四季（４、８、11、１月）ごとに採水を行いました。各季節における採水は、教員と学生で手分けして行いました（写真１）。その後、採取した河川水を大学に持ち帰り、家庭排水や工場排水、細菌などによる水質汚染の程度を分析しました（写真２）。結果、京都府下の河川の水質は概ね良好と思われました。季節性として、夏季は河川由来の水を培養した際に一般細菌や大腸菌の繁殖が多くみられるため、水遊びなどは控えた方が良いと思われました。また、冬季には霜や雪が溶けて河川に流れ込む影響か、土壌由来の成分の混入が目立ちました。繁華街や観光地の中を通る河川ではやや金属成分や生活排水成分が検出されるため、やはり河川の水を飲用や生活用水として使用するのは避けるべきだと考えました。

本活動への参加を募った際、多くの学生から自発的に手が挙がりました。学生は本活動を、楽しみながら学べる有意義な取り組みとして肯定的に捉えたようでした。学生同士で採水の日時を調整し、工夫して実験に取り組む姿勢は大変素晴らしいものでした。本取り組みに参加した学生が環境と化学への理解を深め、得られた結果から考察する態度を身に付けたことは、今後の学生生活や将来に繋がるものと思われます。

写真１

写真２

その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）

①地域を対象とした教育活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	教育活動の内容や成果
文学部	日本語 日本文学科	異文化交流演習１	野村幸一郎	笠源寺	20名	女性の修行道場として全国的に知られる同寺において、活動内容を聞き取り、レポートを作成
文学部	日本語 日本文学科	異文化交流演習１	野村幸一郎	岩屋神社奥の院	20名	岩屋神社奥の院に残る陰陽岩を見学し、有史以前からつづく日本のより続く依り代信仰について学習し、レポートを作成
文学部	日本語 日本文学科	異文化交流演習１	野村幸一郎	二条城	20名	比較文化論の視点から日本の庭園とアジアの庭園について比較を行い、レポートを作成
文学部	日本語 日本文学科	異文化交流演習１	野村幸一郎	無鄰菴	20名	比較文化論の視点から日本の庭園とアジアの庭園について比較を行い、レポートを作成
文学部	日本語 日本文学科	地域課題研究・漢字古典研究・仮名古典研究・書法Ⅵ・作品研究Ⅱ	寺坂昌三 尾西正成	京都市美術館	120名	京都市美術館で開催された日展京都展を鑑賞し寺坂・尾西が作品解説した。参加学生には印象的な作品をいくつか挙げてレポート提出を課した。
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅰ	山内由賀	京都市	56名	京都市で発展してきた伝統産業について学び、地域の歴史と産業への理解を深め、関心を高めた。
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅱ	増渕徹	京都市	39名	京都市で生まれ、活動を続ける現代企業群について学び、京都産業の現在について理解を深め、関心を高めた。
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産	増渕徹	京都市	文学部（歴史学科・歴史遺産学科）及びその他学生43名	京都市域に残る多様な歴史遺産について、講義・見学を通して理解を深め、それらを保存・活用・継承していくための問題意識を深めた。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅰ・Ⅱ	有坂道子	京都市	２回生	江戸時代京都の商家近江屋の古文書解読調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ	有坂道子	京都市	３回生	醍醐寺および内海家の古文書解読調査、江戸時代京都の商家麹屋の古文書解読調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習	南健太郎	滋賀県高島市	教員・受講生（23名）、学生有志（６名）	高島市教育委員会協力のもと、南畑古墳群の発掘調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ	中久保辰夫	兵庫県三木市	３回生	三木市史編さん事業に関わる窟屋扇ノ坂古墳出土須恵器の実測を行った。
文学部	歴史遺産学科	キャリアゼミⅢ	後藤敦史 中久保辰夫	滋賀県	３名	８月２日～８月６日の５日間、滋賀県埋蔵文化財センター（滋賀県大津市）で公益財団法人滋賀県文化財保護協会のインターンシップに参加。滋賀県埋蔵文化財センターにおいて高島市の出土品を展示した。読売新聞地域版に記事掲載。
文学部	歴史遺産学科	遺産情報演習Ⅰ〈a〉	中久保辰夫 小林裕子	醍醐寺	22名	コンソーシアム京都主催世界遺産PBL
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ	小林裕子	京都市下京区 帰命院	３回生13名４回生１名院生２名	美術工芸品悉皆調査及び目録作成
経済学部	経済学科	プロジェクトマネジメントⅡ	乾明紀	京都市	50名	学生プロジェクトチームが、京都市「市政参加とまちづくり」ポータルサイト『みんなでつくる京都』と京都信用金庫「京信人材バンク」などのWEBサイトの改善提案をおこなった。
経済学部	経済学科	プロジェクトマネジメントI	乾明紀	京都市山科区	49名	学生プロジェクトチームが、京都市山科区役所から提示された課題に取り組み、解決策を提案した。
経済学部	経済学科	専門演習Ⅰ	福井弘幸	主催： 一般財団法人日本旅行業協会、関西エアポート株式会社	15名	「第13回関空発『学生と旅行会社でつくる』海外旅行」コンテストに参加し、エントリー43チームの中から企画書、プレゼン審査を経て『準グランプリ』を受賞した。
経済学部	経済学科	専門演習Ⅱ	福井弘幸	主催：大学コンソーシアム京都	15名	『第18回京都から発信する政策研究交流大会』で研究成果を発表し、研究奨励賞の受賞は叶わなかったが、ベスト質問章を受賞した。
経済学部	経済学科	アカデミックスキル	竹内直人	福井県美浜町	25名	５チームに分かれ、美浜町の地域課題(高齢化、空き家問題、観光振興）について、町職員の講義を受けたのちに、その解決策を考え町長他、町の幹部職員にプレゼンテーションを行った。（７月プレゼンテーション）
経済学部	経済学科	専門演習Ⅱ・Ⅳ	平井健文	京都市	16名	京都錦市場商店街振興組合の協力の下で、複数回のワークショップを実施し、地域資源や祭事・行事、錦市場の歴史などについての聞き取りを行った。また学生主体のフィールドワークを実施した。 その成果をリーフレットにまとめ、買い物客や観光客向けに配布する準備を整えた。合わせて、リーフレットの活用方法を学生が検討し、その内容を振興組合や錦市場の商店主に発表した。 加えて、淳芳会の行事の一環として、学生からOBOGの方々に１年間の成果を発表し、リーフレットを手に取ってOBOGの方々が実際に錦市場を散策するプログラムを実施した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	教育活動の内容や成果
経済学部	経済学科	専門演習Ⅳ	平井健文	兵庫県朝来市	13名	地域社会主導の文化遺産(産業遺産) 保全の取り組みを学ぶために、兵庫県朝来市において聞き取り調査、フィールドワークを実施した。また、地元のガイドの方の案内のもとで街歩きを行い、地域資源の価値発見やインタープリテーションの方法を実地で学んだ。
経済学部	経済学科	専門演習Ⅰ・Ⅱ	岡田知弘	京都市	14名	3つのチームに分かれ、花見小路の町並みの変化、パンの食文化、観光地における地震対策について調査を実施し、報告書にとりまとめた。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ	岡田知弘	京都市	15名	京都の観光に関する調査を始めるための基礎的情報を得るために東山区役所でヒアリングのあと現地調査を行った。
経済学部	経済学科	クロスオーバー型課題解決プロジェクト	岡田知弘	株式会社「花駒」 (本社：精華町)	30名	家族葬専門の会社である「花駒」と連携して、最も大切な人を送るプロジェクトの提案を行った。
経営学部	経営学科	4回生ゼミ共同プロジェクト (伝統産業との連携)	木下達文	京都市	14名	SDGsの概念が広がりつつある中で、フードロスや衣料ロス問題から、少し高くても長く使えるもの、あるいは一生使える商品について考える「エターナルプロジェクト」を開始。本年度は京都の伝統産業とSDGsをテーマに10月に京都市役所前でトークセッションや体験ワークショップイベントを実施した。
経営学部	経営学科	3回生ゼミ共同プロジェクト (地域の世代間交流)	木下達文	京都市	15名	現3回生は新型コロナの影響を一番受けており、人との交流について課題をもっている。本年度の授業においては「世代間交流」をテーマに、主として京都で実施されている既存の世代間交流事業についてのフィールドワークを行い、現況把握をした。
経営学部	経営学科	公共マーケティング／文化資源デザイン論	木下達文	滋賀県 近江八幡市	150名	地域課題を地域文化資源の再評価の側面から考える授業であり、2020年度から教員が連携している近江八幡市を対象としている。今年度も新型コロナの影響はあったが、1日のみのフィールドワークを実施し、地域課題の分析と提案を行った。
経営学部	経営学科	ベンチャー起業論	丸山一芳	京都市	112名	胎内DEERS代表取締役高橋孝輔氏による講演を実施した。プロアメリカンフットボールクラブの運営と新潟県胎内市という地域活性化の相乗効果をねらったビジネスモデルについて議論した。
経営学部	経営学科	プロジェクト演習Ⅰ	丸山一芳	京都市	5名	一般社団法人京都知恵産業創造の森による「伝統と革新プロジェクト」において、日本酒研究会にゼミで参画している。大学生の日本酒飲酒傾向アンケート調査を実施し、酒蔵経営者と討議した。
経営学部	経営学科	地域連携型PBL (伝統産業編)	大田雅之	京都市山科区	10名	京都市山科区に所在する京焼・清水焼を生産する清水焼団地の活性化を目的として、調査を行った。
経営学部	経営学科	地域連携型PBL (文化施設編)	大田雅之	京都市山科区	5名	京都市東部文化会館と連携し、文化施設のあり方や舞台芸術の見学などの演習を行った。
経営学部	経営学科	京都山科区における景観喫茶 (薬膳喫茶) の実施	大田雅之	京都市山科区	17名 (京都薬科大学:9名、本学：8名)	京都薬科大学・京都橘大学共同学生団体ME-MEが、山科地域の活性化を目的に景観喫茶を企画し、東野公園で実施した。
経営学部	経営学科	学まちチャレンジプロジェクト	大田雅之	京都市山科区	77名	山科・醍醐地域の活性化を目的としたプロジェクトに助成する制度に採択された学生チームの運営サポートを行った。
経営学部	経営学科	山科かるた第2弾の企画支援	大田雅之	京都市山科区	4名	去年に引き続き、山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会の依頼で、山科かるたの第2弾作成に伴うアイディアと絵札作成の協力を行った。
経営学部	経営学科	「山科“きずな”支援事業」やましなのWA ～心のこもった文通プロジェクト～の実施 (3年目)	大田雅之	京都市山科区	15名	現代ビジネス学会まちづくり研究会が、「山科“きずな”支援事業」の採択を受けて、コロナ禍の過ごし方の提案として山科地域を対象に絵葉書の普及活動を行った。
経営学部	経営学科	七夕陶灯路2022の実施	大田雅之	京都市山科区	42名	社会工学系学会まちづくり研究会主催で、山科の地域資源である京焼・清水焼を活用したあかりイベントを行った。
工学部	情報工学科	プロジェクトマネジメントI	杉浦昌 吉浦裕 平石拓	京都市山科区	約150名	プロジェクトマネジメントの方法の学習の一環として、山科区が解決すべき課題を調査しその解決策を提案するという実習を行った。実習は区と連携して実施し、職員の方々に教材ビデオの提供、区が解決すべき課題の提示、および学生の発表内容の評価などを行っていただいた。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅱ	鈴木克彦	大阪市北区	8名	「歩いて楽しいまちづくりWalkable UMEDA構想」の一環として、2022年11月1～6日に大阪市北区芝田町の歩道上で開催された「ウォーカブル梅田2022」の仮設ブースにおいて、学生によるまちづくり提案と地域の関係者を交えたディスカッションを行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	教育活動の内容や成果
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅱ	松本正富	京都市	8名	「下村家住宅と醍醐のまちづくり」をテーマに、醍醐地区で活動する徳光都妃子氏を講師に迎えて見学勉強会を実施した。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅰ	鈴木あるの	大阪市中央区	11名	(一財) 大阪地域振興調査会「器プロジェクト」と連携し、同プロジェクトメンバーの職人(畳職、表具職、建築士) とミニ講義、学生の作品講評およびディスカッションを行った。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅰ・Ⅲ	鈴木あるの	滋賀県日野町	23名	日野まちなみ保全会と連携し、同町内の日野商家4家屋(うち3家屋は非公開) の見学および事務局長からのこれまでの保存活用の経緯についての講演、さらに伝統料理を継承する会代表の講演もうかがった。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅱ	鈴木あるの	滋賀県日野町	11名	(一社) 近江日野商人島崎の家保存会と連携し、学生による同邸の保存活用提案を発表し、町長ほか町なみ保全に関わる役職者20名と意見交換会を行った。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅱ	鈴木あるの	京都市	11名	京都市内で不動産業を営む内山産業株式会社代表取締役内山佳之氏に、京町家や周辺の古民家の取引についての講演をいただき、学生の古民家改修提案についての意見交換を行った。
工学部	建築デザイン学科	建築設計演習Ⅱ	政木哲也 西山紀子 鈴木あるの	京都市	84名	京都府立植物園をテーマとする設計演習課題を行い、発表会には植物園長ほか技術系職員の方にもご参加・講評していただいた。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅱ	鈴木あるの	奈良県奈良市	11名	重要文化財藤岡家住宅(非公開) にて、江戸期から続く大和商家の建築および経営の歴史や作法について当主夫妻からの講演をいただき、店構えの複雑な構造の開閉や竈門の炊き方の体験を行った。

看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	松本賢哉	大津市	1回生15名	志賀ブロック老人クラブ連絡協議会主催ニュースポーツ交流会に参加、活動サポート
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	松本賢哉 征矢野あや子 深山つかさ 竹中友希 桐明佑樹 足立真実子	大津市石山体育館、大津市瀬田体育館、大津市和邇体育館、大津市坂本市民体育館	1回生106名	大津市老人クラブ連合会との共催で「新体力測定」を、3回に分けて行った。1回生は参加者とペアになり、血圧測定など高齢者の健康状態などについて評価した後、体力測定を行った。参加者は約100名であった。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	征矢野あや子 深山つかさ 竹中友希 桐明佑樹 足立真実子	京都橘大学清優館1階SIMCO、清香館B201	1回生106名 4回生8名	生涯健やか看護学実習Ⅰとして、山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を、3回に分けて本学で行った。1回生は体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行った。4回生はTAとして下回生の指導助言を行った。参加者は合計78名であった。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学演習	松本賢哉 河原宣子 征矢野あや子 奥野信行 小山智史 野島敬祐 深山つかさ	京都市市営醍醐中山団地	3回生94名	醍醐中山団地の住民への生活サポートとして、本学3回生が依頼内容に合わせて活動を行った。17家庭より依頼があり、掃除、片付け、大型ゴミ搬出などの活動を行った。
看護学部	看護学科	京都橘大学淳芳会ホームカミングデイ 健康相談会	黒瀧安紀子 松本賢哉 清水彩 足立真実子 三反埼宏美 竹中友希 十倉絵美 福田沙織 萬代彩子 上野まき子	京都橘大学 清優館SIMCO	1回生4名 2回生9名 4回生2名	SIMCOで、身長、体重、腹囲、骨密度、脳年齢、血管年齢の測定を行い、学生はその補助を行った。4回生は運営と測定補助を行った。教員は、測定結果を基に、健康相談を実施した。
看護学部	看護学科	京都橘大学橘祭 健康相談会	黒瀧安紀子 松本賢哉 清水彩 足立真実子 三反埼宏美 竹中友希 十倉絵美 福田沙織 萬代彩子 上野まき子	京都橘大学 清優館SIMCO	1回生13名 2回生9名 4回生5名	SIMCOで、身長、体重、腹囲、骨密度、脳年齢、血管年齢の測定を行い、学生はその補助を行った。5回生は運営と測定補助を行った。教員は、測定結果を基に、健康相談を実施した。
看護学部	看護学科	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	岡田純子 野島敬祐 中橋苗代 那須ダグバ潤子 松本賢哉 川村晃右 廣澤紀代 渡邉有紀	京都橘大学 清優館	1回生106名	「模擬患者へのフィジカルアセスメント」において、大宅女性会および京都市在住の高齢者を対象に、必要な診査を実施し、得られた情報をもとにアセスメントを行うという授業を行った。学生は事前学習にもとづいて、問診、バイタルサイン測定、身体診査等を実施し、対象者に合わせてコミュニケーションをとりながら必要な観察を行うことの難しさを経験した。そして、事後に実践を振り返ることによって、対象者の安全・安楽に留意した方法で情報収集に必要な診査技法を行うこと、対象者の気持ちや考え方を尊重した態度やコミュニケーションをとることの重要性を学ぶことができた。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	教育活動の内容や成果
健康 科学部	心理学科	マーケティング調査演習	永野光朗	滋賀県草津市	22名	JR草津駅東口の4店舗にて来街者を対象にした面接調査を実施した。272名の方にご協力をいただき、報告書を作成し草津市役所、草津まちづくり会社、および各店舗の方への調査報告会を実施した。
健康 科学部	救急救命 学科	令和4年度京都橘大学健康科学部救急救命学科学生学会	救急救命 学科	京都橘大学	210名 (現地＋オンライン)	学会参加学生による学会発表報告を行った。 救急救命士に精通している講師陣3名を招聘し、教育講演・特別講演を聴講した。
健康 科学部	救急救命 学科	JESA(全国救急救命教育施設協議会)総会	救急救命 学科	京都橘大学	350名 (現地＋オンライン)	救急救命士教育施設協議会の総会を実施した。 教員研修会、教育講演などの講演を聴講した。

②地域を対象とした研究活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	高等教育機関のサステイナビリティ知識移転活動を分析するための文献検討	樋口ゆかり	京都橘大学	本研究は、本著者が2019年10月から開始し今日まで継続している「京都橘大学と山科地域コミュニティの間の地域連携活動についての研究」の一部である。研究開始以来、ステイクホルダーの認識を調査するために実施されたインタビューやアンケート調査、公示されている公的文書などから、多くのデータが収集されてきた。本研究では、これらの収集データを分析するための理論・モデルが探索され吟味された。本論文は、まず、詳細な文献調査を通して、日本の大学特に私立大学がなぜ地域貢献にコミットすべきなのか、なぜ大学の地域貢献がサステイナビリティ知識移転と重なっていくのか、地域の社会問題の解決にはなぜ従来のモード1ではなく比較的新しいタイプのモード2の知識生産が不可欠なのかを説明した。調査結果では、大学のサステイナビリティ知識移転の目的・構成要素・障害・推進要因などを明らかにするとともに、大学―地域コミュニティ間のパートナーシップが推進するサステイナビリティ知識移転が、ソーシャル・キャピタルに左右されることと、ソーシャル・キャピタルを構成する複数の側面についても言及した。最も重要なこととして、本研究を通して、本著者は、京都橘大学を含めた大学の地域貢献活動がサステイナビリティ知識移転となっているかどうかを識別するための分析レンズ(観点) を複数得た。

文学部	歴史学科	神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	科学研究費補助金基盤研究（A）(2022～2026年度、研究代表者：金子拓) の研究分担者。
文学部	歴史学科	特定共同研究「賀茂別雷神社文書の調査・研究」	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究(代表:金子拓)。昨年度から継続。賀茂別雷神社文書の分析を通し、同社の神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史学科	京都の蹴鞠史の研究	尾下成敏	京都府など	16世紀の京都の蹴鞠の会を対象に、蹴鞠と民衆の関わりを論じた、「研究余録　戦国・織豊期の蹴鞠界と庶民」という小文を執筆し、『日本歴史』893号において公表した。
文学部	歴史遺産学科	彦根藩史料調査研究	有坂道子	滋賀県彦根市	彦根城博物館による館蔵史料の共同研究。
文学部	歴史遺産学科	水中考古学的調査による琵琶湖湖底遺跡の基礎的研究	南健太郎	滋賀県大津市	大津市に所在する坂本城跡の水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	古墳築造技術の研究	南健太郎	岡山県岡山市	岡山市造山古墳におけるミューオン分析を実施し、埋葬施設の研究を行った。
文学部	歴史遺産学科	三角縁神獣鏡鋳造技術の研究	南健太郎	富山県高岡市	三角縁神獣鏡の鋳造技術解明に向けた鋳造実験を実施した。
文学部	歴史遺産学科	摂津市史の編さん	中久保辰夫	大阪府摂津市	2022年3月に『新修　摂津市史』第1巻の刊行。12月10日 には、新修摂津市史第一巻刊行記念講演会「よみがえる古代・中世の摂津」において、「摂津市域の考古遺産」と題する発表を行った。
文学部	歴史遺産学科	三木市史の編さん	中久保辰夫	兵庫県三木市	三木市史執筆のため、小和田神社石棺などの三次元計測などを実施した。
文学部	歴史遺産学科	高島市内遺跡調査	中久保辰夫	滋賀県高島市	高島市の文化財調査について、朽木家墓所、下五反田遺跡の調査などを市教育委員会の要請により、補助した。
文学部	歴史遺産学科	クワンス塚古墳出土品再整理に関する研究助言	中久保辰夫	兵庫県加西市	加西市玉丘古墳群のクワンス塚古墳出土品について、土器資料を中心に年代や系譜などの研究助言を行った。今年度末に報告書で、論考掲載予定。
文学部	歴史遺産学科	山科区内考古遺産の解説と石造物の調査	中久保辰夫	京都市山科区	山科「ふるさとの会」の要望に応え、山科区内の歴史遺産の解説などを行うとともに、協働して岩屋神社等の石造物の三次元計測の実施。
文学部	歴史遺産学科	国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」発掘調査検討委員会委員	中久保辰夫	兵庫県三木市	「三木城跡及び付城跡・土塁」発掘調査について、指導助言を行った。

発達教育学部	児童教育学科	絵本と表現の保育の共同研究	佐野仁美	滋賀県草津市	JSPS科研費課題番号21K02478の研究の一部として、たちばな大路子ども園の保育者との共同研究を行った。2～5歳児の各クラスにおいて発達段階に応じた絵本と保育方法を提案して2022年11～12月に実践し、参観後、保育者、園長とともに振り返りを行った。今回は拍にのり、抑揚をつけた言葉の表現や絵描き歌を主とする内容であり、実践結果をまとめて学会等で発表する予定である。
発達教育学部	児童教育学科	小学校における音楽づくりの共同研究	佐野仁美	京都市	JSPS科研費課題番号21K02478の研究の一部として、京都女子大学の教員と音楽づくりの共同研究を行う。教材を開発して教育方法とともに提示し、2月、3月に京都女子大学附属小学校において和太鼓を用いた実践を予定している。

経済学部	経済学科	高等学校の探究学習に関する研究(科研費「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究)	乾明紀	京都府	高校の探究活動は地域との協働による学校改革の側面をもつ。地域や企業などとも連携して行われる高校の探究学習における高校生の変化を研究している。
経済学部	経済学科	自治体による地域中小企業振興政策のあり方についての研究	岡田知弘	全国各地	地域経済学の視点から、地方自治体による地域中小企業振興の在り方について、日本地域経済学会と日本中小企業学会の共同セミナーで報告した。
経済学部	経済学科	観光政策と地方財政問題についての研究	岡田知弘	京都及び全国各地	地域経済学の視点から、観光政策が地方財政に与える影響を、主として京都市を素材に研究し、日本地方財政学会のシンポジウムで報告した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
経営学部	経営学科	「産地の活性化における中小企業と行政による知識創造 一八尾市の事例分析一」、日本地域政策学会、第21回全国研究大会（石巻専修大学Zoomオンライン開催）、『大会予稿集』、pp.66-67.	丸山一芳	八尾市ほか 大阪府	地方自治体の政策と企業の知識が融合する新たな地域イノベーション過程を考察する目的で、八尾市を中心としたオープンファクトリー「FactorISM」と「みせるばやお」を対象に事例分析を実施した。
経営学部	経営学科	「京都の中小企業におけるコアバリュー可視化推進プロジェクト」、一般社団法人京都知恵産業創造の森、競争的産学連携活動補助金	丸山一芳	京都府	DESIGN WEEK KYOTOを手掛けるCOS KYOTO社と共同で、八女市や富士吉田市の調査を実施した。この調査をもとに、京都府内の中小企業におけるコアバリューの可視化を推進した。
経営学部	経営学科	【「学まち連携大学」促進事業】卒業生インタビューの実施	大田雅之	京都市山科区	「学まち連携大学」促進事業の一環として、地域連携活動を学生時代に行ってきた卒業生にインタビューを行い、地域活動に参加する意義について調査を行った。
経営学部	経営学科	【大学コンソーシアム京都】2022年度指定調査課題 京都市における大学生と地域団体による長期的な地域連携活動の実態とその支援の在り方についての研究	大田雅之	京都市	大学コンソーシアムの研究採択を受けて、京都市内の大学地域連携の実態を調査した。
経営学部	経営学科	山科区役所「山科“きずな”支援事業」の振り返り	大田雅之	京都市山科区	これまで長期に行ってきた山科区役所のまちづくり補助金の意義や効果などを整理し、今後の支援のあり方について提言を行った。

工学部	情報工学科	焼却炉AI自動化に関する研究	加藤丈和 西出俊 吉川寛樹	京都環境 保全公社	産業廃棄物の焼却炉において、不完全燃焼や有害ガスの排出を抑えるために、ゴミの種別や焼却状態に合わせて空気量やゴミ投入量をAI技術を使って自動制御するシステムの研究開発。オペレータがおこなっている制御データから、焼却炉の温度、ガスの含有率から空気量を予測するシミュレーションをおこなった。
工学部	建築デザイン学科	高経年分譲マンションの長寿命化に向けた管理方策に関する調査	鈴木克彦	京都市	国土交通省による支援の下、京都市と協力して高経年の京都市内の分譲マンションの管理実態をヒアリング調査し、その成果を国及び京都市のマンション政策に反映させるべく取りまとめた。

看護学部	看護学科	訪問看護師のための家族看護オンラインシミュレーション学習プログラムの開発	野島敬祐 平岡華奈江	京都府 大阪府 兵庫県	訪問看護師にとって家族看護実践は必要不可欠でありながら困難を感じている。しかしながら、病院看護師と比して学ぶ機会が圧倒的に少ない。そのため学びたいときに学べるオンラインシミュレーションプログラムを開発した。今年度はプロトタイプを実施した。

健康 科学部	理学療法 学科	脳・身体機能の加齢変容に関する研究	中野英樹	京都市	高齢者を対象として、脳機能と身体機能の客観的・定量的評価を行い、それらの機能が加齢に伴いどのように変容するかどうかについて研究を行った。なお、本研究は国立研究開発法人情報通信研究機構との共同研究で実施した。
健康 科学部	理学療法 学科	学童期の子どもの身体・精神心理機能と子どもロコモに関する研究	安彦鉄平	京都市山科区	子どもたちの運動機能の健やかな発達に寄与することを目的に、京都橘大学理学療法学科と大宅児童館が連携し、実施した。体力測定会は2022年8月3、4日の2日間で実施し、59名の子どもたちを測定した。
健康 科学部	作業療法 学科	作業療法士による特別支援学校（知的障害）でのコンサルテーションに関する研究	原田瞬	大阪府堺市	作業療法士による地域支援の1つである特別支援学校でのコンサルテーションが、対象児童生徒、教員に及ぼす効果を明らかにすることを目的に効果検証研究を実施している。特別支援学校教諭の作業療法士に対する相談内容に関する分析が日本発達系作業療法学会誌に掲載された。
健康 科学部	作業療法 学科	地域活性化を目的とした世代間交流のあり方とその効果に関する研究	原田瞬 小川敬之 川﨑一平 永井邦明	山科区山科団地 エリア	山科団地エリアの高齢者を対象に、世代間交流の状況や望むものについて調査した。昨年度の調査結果を第55回日本作業療法学会にて報告した。また、リモート型の世代間交流の取組について日本世代間交流学会誌に掲載された。
健康 科学部	作業療法 学科	MCI・軽度認知症の人に対する無償および有償の趣味教室の効果検証に関する研究	小川敬之	京都市 福岡市 新潟市など	MCI、軽度認知症の方に対する趣味講座が認知症の人にどのような影響を与えるかの実証研究。今年度最終年度。
健康 科学部	救急救命 学科	第8回日本救急救命学会	関根和弘 福岡範恭	全国	救急救命士を中心とした学術集会、京都府下を中心にして本学学生以下が発表・聴講した。
健康 科学部	救急救命 学科	若い世代（学生等）による高齢者の生活支援に関する調査研究事業	平出敦 関根和弘 松本賢哉（看護） 他	京都市	シンポジウムタイトル：高齢者は“支えられる”存在なのか？－若者と高齢者の関係性を参加者らとディスカッションを実施した。
健康 科学部	臨床検査 学科	山科区近隣地域の河川および湖沼における水質の解析	岡田光貴 米田孝司 臨床検査学科2回生の15名	京都市山科区 及び その近隣地域	2022年度は2回生の学生15名が本研究に協力し、採水と実験、学会発表に取り組んでいる。桂川、高瀬川、高野川、鴨川、琵琶湖疏水、山科川、宇治川、山科音羽川の8河川、10ヶ所で水質調査を行った。行政にて実施されている検査項目だけでなく、特殊検査項目についても測定し、独自の結果が得られている。研究の成果は、3/4－5（土、日）に開催した第33回生物試料分析科学会年次学術集会にて発表した。

③地域を対象とした社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	職業人講話ガイダンス	樋口ゆかり	滋賀県大津市	なし	実施日：2023年3月14日 昨年に続き、大津高校から講師依頼を受け「英語を武器にする仕事：海外で暮らす。すると、母国日本はどう見えるか?」というテーマで、高校1年生に特別講義を行う。
国際英語学部	国際英語学科	山科警察署職員向け 英語教養講座	樋口ゆかり クリストファー・コネリー メガン・グィン・エリス	京都市山科区	延べ15名	実施期間：2022年12月13日～2023年2月28日 全6回(100分／回) 京都市は日本で有数の観光地であり、山科区にも多くの歴史遺産があるため、訪れる国際観光客数も年々増加している。また、近年、外国人居住者数も増加傾向にある。そのため、この地区を管轄する山科警察署職員は、多文化共生理解を深めること、および、英語言語によるマナーを習得する必要性に直面している。本講座は、それらを支援するため、国際英語学部の教員と学生が企画したものである。この報告書を作成している時点で、第1回目講座を終えている。受講生の警察職員からは好評を得ており、また、教員・学生も成功を実感している。
国際英語学部	国際英語学科	三重県名張青峰高校研究授業 指導助言	中井弘一	三重県	なし	2022年6月7日 三重県教育員会の指定研究による三重県立名張青峰高等学校知語科教諭の授業を参観し、研究協議を行った。
国際英語学部	国際英語学科	第39回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府予選大会	中井弘一	京都府	なし	2022年7月16日 京都府立木津高等学校多目的ホールで、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府代表を決めるコンテストでチーフジャッジをつとめ、コンテスト後、効果的なスピーチについて特別講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	第38回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府予選大会	中井弘一	大阪府	なし	2022年7月17日 大阪市立住之江商業高等学校多目的ホールで、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府代表を決めるコンテストでチーフジャッジをつとめ、効果的なスピーチについてコメントした。
国際英語学部	国際英語学科	「英語の教え方教室」 講演会	中井弘一	関西一円の 中高教員	5名	「指導と評価の一体化　英語指導とその評価のあり方」について、本学で講演会を開いた。本学学生、本学卒業の英語科教員合計5名の参加を含み、関西一円から44名の参加者を得た。
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立加古川西高等学校特別講義	中井弘一	兵庫県加古川 地域	なし	2022年10月7日 加古川西高等学校から講師依頼を受け「思考力の育成ーディベートの発想を通して」というテーマでResolved: The Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo.をもとに2年生45名の生徒に特別講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立尼崎小田高等学校研究授業指導助言	中井弘一	兵庫県尼崎市	5名	2022年10月26日 尼崎小田高校の英語科教員の研究授業を参観し、指導助言と授業のあり方について特別講演を行った。本学教職履修学生も参加。
国際英語学部	国際英語学科	滋賀県高等学校英語ディベート県代表選考 予選大会	中井弘一	滋賀県	なし	2022年10月30日 全国高等学校英語ディベート大会滋賀県代表選考の予選会にジャッジとして判定・コメントを行った。大会終了のあいさつでディベートの持つ意味合いのミニ講義も行った。
国際英語学部	国際英語学科	三重県名張青峰高校研究授業 指導助言	中井弘一	三重県	なし	2023年2月6日 三重県教育員会の指定研究による三重県立名張青峰高等学校で30名ほどの県内の教員を迎えて行われる公開授業を参観し、研究協議、指導助言を行った。

文学部	日本語 日本文学科	ものつくり体験教室	寺坂昌三 尾西正成 学生有志	京都市山科区	10名	大宅児童館において夏のものつくり体験を開催。風鈴づくりを実施した。
文学部	日本語 日本文学科	書道ワークショップ	寺坂昌三 尾西正成 学生有志	京都市山科区	10名	イオンタウン山科椥辻にてワークショップを開催。うちわ・しおり・色紙作品を作った。
文学部	日本語 日本文学科	地域の皆さんのための 書道教室	寺坂昌三 尾西正成 学生有志	京都市山科区	10名	たちラボ山科にて定期的に書道教室を開催。
文学部	歴史学科	自治体史の編纂	野田泰三	京田辺市（京都府） 摂津市（大阪府） 五條市（奈良県）	なし	各市史の編纂委員、編さん専門員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	講演会	尾下成敏	宇治市	なし	「近世初期大名の後継者教育ー細川忠興と上杉景勝を中心に一」というタイトルで講演を行った。これは、近世初期の大名が自身の後継者にどのような教育を施したかについて講演したものである。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	有坂道子	京都府	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の模擬授業。11月15日に精華町立精華台小学校6年生92名を対象に行った。
文学部	歴史遺産学科	史跡芦浦観音寺跡整備懇話会	有坂道子	滋賀県草津市	なし	芦浦観音寺跡整備事業について懇話会委員として助言。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	中久保辰夫	京都府	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の模擬授業。9月12日に京田辺市立草内小学校6年生2クラスを対象に行った。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	中久保辰夫	京都府	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の模擬授業。10月17日に京丹後市立橘小学校6年生1クラスを対象に行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史遺産学科	大阪府立近つ飛鳥博物館 令和４年度春季特別陳列講演会	中久保辰夫	大阪府	なし	令和４年度春季特別陳列「茅渟縣陶邑と須恵器生産のはじまり―大庭寺遺跡出土品指定記念―」講演会において、「初期須恵器の生産と韓半島から渡来した陶工たち」と題する発表を5月14日に行った。
文学部	歴史遺産学科	令和４年度 山の辺文化会議総会 記念講演	中久保辰夫	奈良県天理市	なし	令和４年度 山の辺文化会議総会 記念講演において、「物部氏の台頭と権力基盤としての布留遺跡」と題する講演を5月22日に行った。
文学部	歴史遺産学科	天理市観光協会 設立65周年記念講演会	中久保辰夫	奈良県天理市	なし	天理市観光協会設立65周年記念講演会「ここまで判った布留遺跡－物部氏以前とその後－」において、「布留遺跡出土の須恵器について」という発表を9月18日に行った。
文学部	歴史遺産学科	八尾市立歴史民俗資料館 特別展記念講演会	中久保辰夫	大阪府八尾市	なし	「考古資料からみた 八尾の古代氏族－物部氏－」特別展記念講演会において、「考古学からみた河内と大和の物部氏」と題する発表を11月３日に行った。
文学部	歴史遺産学科	みき歴史資料館 歴史ウォーク	中久保辰夫	兵庫県三木市	なし	11月27日にみき歴史資料館 歴史ウォーク3「吉川町有安・鍛冶屋の文化財コース」で講師として案内した。
発達教育学部	児童教育学科	げんKids★応援隊	倉持祐二	京都市山科区 その他京都市内	延べ120名	コロナ禍の影響でできなかった対面での取り組みを再開した。勧修小学校の「勧修おやじの会」といっしょに実施する「夏祭り・キャンプ」や、12月のクリスマス会である。特に、今年度のクリスマス会は、「たちばなこども食堂」とのコラボ企画であったことから、170名を超える参加者を得ることができ盛況であった。
発達教育学部	児童教育学科	地域との協働による高校教育改革推進事業運営指導委員会委員	水山光春	兵庫県・県立兵庫高等学校地域	なし	兵庫県立兵庫高等学校が、文部科学省から指定を受けて行っている地域との協働による高校教育改革推進事業(グローカル型）における標記事業において、運営指導委員会委員長として、事業内容、研究方法及び研究成果・課題等について、専門的見地から指導・助言・評価を行っている。
発達教育学部	児童教育学科	「歩くまち・京都 学習」検討会	水山光春	京都市	なし	京都市都市計画局「歩くまち・京都」推進室、及び京都市中学校会社会科研究会と協働し、モビリティ・マネジメント教育ならびに京都市の優先政策課題である「歩くまち・京都」憲章具体化のための教材研究・開発・実践・評価を行い、その成果を全市中学校社会科教員に還元している。
発達教育学部	児童教育学科	京都市環境保全活動推進協会基本構想推進委員会プログラム開発・人材育成小委員会	水山光春	京都市	なし	京都市環境保全活動推進協会が設置する基本構想推進委員会プログラム開発・人材育成小委員会において、環境教育・市民性教育の視点から、協会事業に対する助言と提言を行う。
発達教育学部	児童教育学科	草津市 保育者スキルアップ研修会	佐野仁美	滋賀県草津市	なし	草津市とたちばな大路子ども園との共催で、草津市の保育士を対象として、2022年10月14日にキラリエ草津において、子どもの音楽的創造性を高める表現遊びについての講演を行った。
経済学部	経済学科	京都市市民参加推進フォーラム（審議会）	乾明紀	京都市	なし	同フォーラムの副座長を務めている。京都市民の市政とまちづくりへの参加を推進するために、若者への裾野拡大のための取り組みと市民参加度合を計る指標の検討を行っている。
経済学部	経済学科	大学コンソーシアム京都 高大連携推進室コーディネーター	乾明紀	京都府	２名	京都の府・市・私立高校、大学コンソーシアム京都、京都商工会議所が連携する京都高大連携研究協議会が主催する高大連携教育フォーラムや高大連携キャリア教育プログラムなどの企画検討・運営・検証などをおこなった。高大連携キャリア教育プログラムとして開催した高大社連携フューチャーセッションでは２名の学生が参加した(うち１名は実行委員長)。
経済学部	経済学科	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 令和３(2021）年度府立高校共通履修科目「スマートAP」の設計助言および講師	乾明紀	京都府（鳥羽・福知山・洛北・嵯峨野・南陽・峰山の各高校）	なし	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の一環として行われる京都府教育委員会主催の探究学習型共通履修科目のカリキュラム設計に際し、助言をおこない、加えて講師・ファシリテーターを２日間担当した。
経済学部	経済学科	京都府立鳥羽高校学校運営協議会委員長	乾明紀	京都府	なし	「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教行法第47条の5）に基づき設置される学校運営協議会の委員長として学校運営に関わった。
経済学部	経済学科	京都東ライオンズクラブ結成60周年記念事業「こども未来プロジェクト基金」の審査員	乾明紀	京都市	なし	京都東ライオンズクラブの結成60周年記念事業として設立された「こども未来プロジェクト基金」の該当団体を選定する審査員をつとめた。
経済学部	経済学科	専門演習Ⅰ	福井弘幸	滋賀県	15名	(公社）びわこビジターズビューローに対し『シガリズムコンテンツ創出事業』の一環として新たな地域商品の提案をおこなった。
経済学部	経済学科	JIAM講師	竹内直人	滋賀県大津市	60名	市町村職員課長補佐級研修。政策形成について（7月実施）
経済学部	経済学科	福井県福井市行政改革推進委員会	竹内直人	福井県福井市		福井県福井市行政改革推進委員会の委員として改革案を審議(6月実施)

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	福井県越前市行財政改革推進委員会	竹内直人	福井県越前市		福井県越前市行財政改革推進委員会の委員として改革案の策定を審議(7月実施)
経済学部	経済学科	福井県おおい町頭巾山青少年旅行村再整備基本計画コンセプト検討委員会	竹内直人	福井県おおい町		福井県おおい町頭巾山青少年旅行村再整備基本計画コンセプト検討委員会の委員長として、計画策定のコンセプトを審議(10月、2月)
経済学部	経済学科	福井県福井市財政健全化専門部会	竹内直人	福井県福井市		福井県福井市財政健全化専門部会委員として行政改革の進捗を審議(10月実施)
経済学部	経済学科	福井県越前市総合計画策定に関する講演会	竹内直人	福井県越前市	40名	総合計画の策定を前に、職員に対して総合計画の歴史と課題、今後の方向性について講演(4月実施)
経済学部	経済学科	錦市場行動変容研究会のコーディネート	平井健文 大田雅之	京都市 錦市場商店街	16名	京都錦市場商店街振興組合が主催する研究会のコーディネーターを務めた。3年目となる今年度は、昨年度に引き続き地域資源の発掘と伝達による質の高い観光経験の提供をテーマに、学生も参加してワークショップを実施した。その結果を、一般に配布可能なリーフレットにまとめて振興組合事務局に提供するとともに、その活用方法の提言などを行った(①教育欄にも記載あり)。
経済学部	経済学科	滋賀県公共事業評価監視委員会	吉川英治	滋賀県	なし	公共事業評価監視委員会に経済分野の委員として参加した。
経済学部	経済学科	甲賀市入札監視委員会	吉川英治	滋賀県甲賀市	なし	入札監視委員会の委員長を務めた。
経済学部	経済学科	米原市国民健康保険運営協議会	吉川英治	滋賀県米原市	なし	国民健康保険運営協議会の副委員長を務めた。
経済学部	経済学科	総務省自治大学校講師	岡田知弘	全国の都道府県 市町村	なし	総務省の自治大学校において、「地域産業政策」をテーマにした研修講師を行った。
経済学部	経済学科	砺波散村地域研究所運営協議員	岡田知弘	富山県砺波市	なし	砺波市市立散村地域研究所の運営活動に従事した。
経済学部	経済学科	京都市『東山の未来』区民会議	岡田知弘	京都市東山区	なし	東山区の基本計画を見直す区民会議の議長を務めた。
経済学部	経済学科	京都中小企業家同友会	岡田知弘	京都府	なし	京都府内におけるコロナ禍での地域課題と今後の中小企業者運動のありかたについて講演し、助言を行った。
経済学部	経済学科	長岡京市（仮称）中小企業振興条例検討会	岡田知弘	京都府長岡京市	なし	長岡京市の中小企業振興条例検討会の会長を務めた。(2022年10月まで)
経済学部	経済学科	長岡京市中小企業振興推進会議委員	岡田知弘	京都府長岡京市	なし	長岡京市の中小企業振興推進会議会長を務めた(2022年12月以降)
経済学部	経済学科	近畿農政局技術評価委員	岡田知弘	近畿一円	なし	農林省の土地改良事業の事前、事後評価に専門委員として参画した。
経済学部	経済学科	岩手県陸前高田市議会	岡田知弘	岩手県 陸前高田市	なし	中小企業振興基本条例制定に関わるレクチャと助言を行った。

経営学部	経営学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市	5名	守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。今年度は新型コロナの影響が比較的ゆるやかになったため、規模をほぼ従来型にして実施。立命館守山会場を中心に学生も事前研修および本番でのイベントマネジメントを体験的に学ぶ機会となった。
経営学部	経営学科	「やましな山科駅前陶灯路」の運営	木下達文 大田雅之	京都市山科区	なし	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今年度も新型コロナの関係でイベント事業が中止となったが、事務局の事情から次年度意向も継続が難しい状況となっており、旧来型の連携維持はほぼできなくなっている。
経営学部	経営学科	山科検定の運営協力	木下達文	京都市山科区	なし	山科区が実施するご当地検定である。今年度は3年ぶりに開催することとなり、新テキストを利用した初めての実施となった。ただ、大学生の参加がほとんどなく、継続的な課題となっている。
経営学部	経営学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	滋賀県 近江八幡市	なし	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建を夢見る会」の運営サポートを中心に行なっている。顧問として参加。滋賀県立安土城考古博物館運営懇談会委員。今年は再建論の調整を行う。
経営学部	経営学科	安土城考古博物館展示リニューアル事業協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県県立安土城考古博物館の老朽化にともない、展示の全面リニューアル事業の協力を行う。過去に博物館展示論で学生による事業評価協力を行うなどしており、その反映をしている。今年度は実施設計に向けた映像展示の方向性を検討した。
経営学部	経営学科	特別史跡安土城跡整備基本計画策定協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県が本年度より取り組んでいる特別史跡安土城跡整備基本計画策定検討会議に委員として参加。敷地所有者との連携がうまく進んだことにより、未発掘の地域が多く残る安土山の今後の発掘の方向性を検討した。今年度で計画をほぼ終え、来年度から徐々に整備や発掘を進めていく。
経営学部	経営学科	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画協力	木下達文	滋賀県 近江八幡市	なし	滋賀県が本年度より取り組んでいるデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画検討懇話会に委員として参加。資料不足など多くの問題で再建が難しい安土城を、デジタルで復元していくという事業への協力。本年度の全体的な方向性を検討し、主に現地におけるAR利用を中心に検討している。また、近江八幡市の方ではメタバースを利用したシステム開発のアドバイスを行っている。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経営学部	経営学科	滋賀県内における博学連携事業への協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県の文化政策(主に博学連携事業) を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業協力を行う。主に文化施設と学校をつなぐ「連携授業」の在り方について様々な言及や広報事業の協力を行う。理事として参加。事業が20年を超えてきたため、来年度に事業を集約した本の発刊を目指している。
経営学部	経営学科	客引き行為等対策審議会への協力	木下達文	京都市	なし	京都市の繁華街における客引き行為を禁止する条例があるが、いまだに客引きが絶えない現状を検討する審議会の委員として参加。現状分析並びに今後の対策について検討を行った。とくに、今年度は学内において啓発事業を初めて実施した。
経営学部	経営学科	地域一体型オープンファクトリー広報研究会	丸山一芳	近畿地域 ならびに 福井県	なし	伝統産地において中小企業や工房が連携して実施する地域一体型オープンファクトリーについて、その広報のあり方や2025年の万博との相乗効果について議論する経済産業省近畿経済産業局の研究会において委員(座長) として参加した。
経営学部	経営学科	人材獲得戦略構築ワークショップ	丸山一芳	九州全域	なし	経済産業省九州経済産業局の事業において、地域の中小企業が人材確保のために具体的な戦略を構築する「人材獲得戦略構築ワークショップ」を担当し、現状の課題、将来ビジョン、自社のコアバリューと価値観を参加者と議論した。
経営学部	経営学科	第３回「日本文化の継承と魅力発信」	丸山一芳	大阪府堺市	なし	凸版印刷による、大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」セミナーの全体ファシリテーターと講演を担当した。堺市における和包丁堺打刃物における職人の技の継承とDXについてNEC、堀場製作所、凸版印刷の登壇者と議論した。
経営学部	経営学科	たちばなサイエンスデーおしえて！もてなすくんの実施	大田雅之	京都市山科区	40名	本学が、主催する「たちばなサイエンスデー」にて、社会・工学系学会まちづくり研究会とともに山科地域を意識した子どもの遊び場ブースを実施した。
経営学部	経営学科	京都市東部文化会館地域文化芸術活動活性化協議会	大田雅之	京都市山科区	なし	京都市東部文化会館の地域文化芸術活動活性化協議会委員として参加した。

工学部	情報工学科	日本原子力研究開発機構福島研究開発・評価委員会	伊藤京子	福島県	なし	福島県の復興に向けた研究開発の評価に関して、委員として参加し、研究開発の方向性に対して評価した。
工学部	情報工学科	京都府鴨沂高校模擬授業	伊藤京子	京都市	なし	「AI概論 ～AIは何がすごい?どう役立つ?どこがおもしろい?～」と題した模擬授業を鴨沂高校２年生39名を対象に行なった。
工学部	情報工学科	スマートファクトリー促進支援事業審査会委員	加藤丈和	京都府	なし	京都府内の中小工場向けの工場のスマート化への補助金申請の評価に関して、審査委員として参加し、スマート化のコンセプトや申請内容の妥当性について評価した。
工学部	情報工学科	スマートファクトリー導入実践セミナー講演	加藤丈和	京都府	なし	京都府内の中小工場を対象に、工場のスマート化の啓蒙を行うとともに、中小工場のスマート化についての事例紹介とその効果、意義、中小工場に適したシステムについて紹介する。
工学部	建築デザイン学科	洲本市総合基本計画審議会	鈴木克彦	兵庫県洲本市	なし	委員長として、平成30年に策定した洲本市総合基本計画について、令和5年度以降の5年間の後期基本計画の素案を検討し、洲本市長に答申した。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築工事紛争審査会	鈴木克彦	京都府	なし	建築工事に関する当事者間の紛争を解決させるための調停審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築審査会	鈴木克彦	京都府	なし	副会長として、建築基準法に基づき建築許可が必要な建築物に対する可否や同意、不服申し立てなどの審査請求に対する議決等を行った。
工学部	建築デザイン学科	大阪府建築協定地区連絡協議会	鈴木克彦	大阪府	なし	大阪府下340地区の建築協定地区で構成される連絡協議会の特別顧問として建築協定の運営指導を行った。
工学部	建築デザイン学科	近畿弁護士会連合会夏季研修会	鈴木克彦	大阪府他	なし	マンション問題に取り組んでいる弁護士を対象にした研修会において、「マンションを巡る間居問題」と題した講演を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府宅地建物取引業協会第二支部ハトマーク研修会	鈴木克彦	京都市	なし	宅地建物取引業者を対象とした研修会において、「マンションの査定が変わる!!」と題した講演を行い、不動産業における社会的貢献の必要性について指導を行った。

看護学部	看護学科	COVID-19特定外来支援支援	看護学科	京都市山科区	なし	洛和会音羽病院の特定外来にて、PCR検査の実施支援を行った。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復支援セミナー	小西奈美	全国	なし	女性の依存症者の回復支援を目的に結成した当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして2022年11月「思春期からのアディクション～ヤングケアラーVer.」セミナーをZoomにて開催。全体で終了後にリラクゼーション誘導を行った。2023年２月に「発達障害Ver.」開催。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	京都市版IHEAT活動	黒瀧安紀子 河原宣子 小西奈美 深尾沙紀 岩崎真子 下田優子 上野まき子 渡邉有紀 福田沙織	京都市	なし	COVID-19の拡大に伴い、京都市内にある大学の有志で京都市版IHEATが結成され、積極的疫学調査への協力、自宅療養者への情報提供のための資料作成等を行った。
看護学部	看護学科	令和４年度 訪問看護師情報交換会	黒瀧安紀子	京都市	なし	訪問看護ステーションのBCP作成と災害への備えに関する講義を行った。
看護学部	看護学科	京都市伏見区醍醐支所 研修会	黒瀧安紀子	京都市伏見区	なし	災害時の保健師活動の共通理解とアクションカードの作成と災害への備えを行う。
看護学部	看護学科	京都市右京区研修会	黒瀧安紀子	京都市右京区	なし	受災時の保健師活動として、昨年の研修会を基に、発災時に活動できるようアクションカードの作成のワークショップを実施する。
看護学部	看護学科	京都府看護協会企画研修	黒瀧安紀子	京都府	なし	京都府看護協会災害委員として、避難所HUG研修のファシリテーターを担当する。
看護学部	看護学科	京都府看護協会企画研修	黒瀧安紀子	京都府	なし	京都市が行う防災フェスに京都府看護協会災害因として、啓蒙活動に参加した。
看護学部	看護学科	箕面肢体不自由父母の会	黒瀧安紀子	大阪府箕面市	なし	昨年行った個別避難計画の講習会を基に、今年度は具体的に事例を用いて個別避難計画を作成する。
看護学部	看護学科	第18期小児在宅ケアコーディネーター研修会	奈良間美保 堀妙子 伊藤弘子 澤田祐毅	全国	４回生６名	全国の小児の在宅ケアに関わる看護職を48名を対象とし、2022年6月18日・19日、9月3日、11月20日の全３回の研修会を行った。第１回・第２回はオンライン開催としたが、第３回は対面とオンラインを併用して研修会を行った。
看護学部	看護学科	ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 遠隔健康支援教育フォーラム	野島敬祐	福岡県	なし	「新たな情報収集スキルとアセスメント力の育成、地域ケアの実装に向けて」というテーマで在宅医療・在宅緩和医療について、開業医と緩和医療専門医とともに講演を行った。
看護学部	看護学科	公衆衛生看護学分野における思考力を育てるシミュレーション教育セミナー	野島敬祐	山口県	なし	山口大学医学部保健学科看護学専攻の戦略的研究プロジェクトの一環セミナーで、思考力を育てるシミュレーションの授業設計について、講演を行った。
看護学部	看護学科	静岡県看護協会における研修	奈良間美保	静岡県	なし	2022年12月9日に、静岡県看護協会主催の研修「小児の在宅療養を支援する看護職の役割」において、①小児在宅ケアの社会的背景と看護の課題、②小児在宅ケアの対象となる子どもと家族の理解(総論) に関する講義を行った。
看護学部	看護学科	滋賀県看護協会における小児在宅移行支援事業	奈良間美保	滋賀県	なし	2023年1月28日に、滋賀県看護協会主催の小児在宅移行支援事業として開催される研修「医療的ケア児と家族の暮らしを地域で支える」の基調講演として、「子どもも家族も自分らしくいられるために-医療的ケア児と家族が自分らしく、地域で豊かに暮らせるように-」の講師を担当する。

健康 科学部	心理学科	保育コンサルテーション	宮井研治 濱田智崇	京都市山科区 滋賀県草津市	なし	草津市立こども園4か園、山科区内こども園1園にて、統合保育に関するコンサルテーションを実施した。
健康 科学部	心理学科	みんなのこころ育て広場	大久保千惠	山科 醍醐地区	学生９名	心理学科「子どもサポート研究会」の企画として、放課後等デイサービスに通所しておられるのお子さんを大学に招き、クリスマスグッズの制作と体育館でのミニ運動会を開催した。
健康 科学部	心理学科	みんなのこころ育て広場	大久保千惠	山科 醍醐地区	学生９名	心理学科「子どもサポート研究会」の企画として、放課後等デイサービスに通所しておられるお子さんを大学に招き、体育館で人間すごろくを行い楽しんだ。
健康 科学部	心理学科	京都府自死予防カレッジ会議	大久保千惠	京都府	学生10名	京都府自死予防カレッジ会議に学生とともに参加し、自死予防活動について検討を重ねた。3月1・２日にはイオンモールKYOTOにおいて開催される「自殺対策啓発イベント京都いのちの日メッセージ展に参加する。
健康 科学部	心理学科	キンダーカウンセラー 派遣事業研修	菅野信夫	大阪府 京都府	なし	大阪府・京都府の各私立幼稚園連盟が行っているキンダーカウンセラー派遣事業のスーパーヴァイザーとして、それぞれ年３回ずつ、派遣されるキンダーカウンセラー（臨床心理士）と派遣先の幼稚園園長を対象に子育て支援に関する研修会を開催。
健康 科学部	理学療法 学科	守山市地域在住高齢者 体力測定会	宮﨑純弥	滋賀県守山市	10名	滋賀県守山市地域包括支援センターが主催する健康のび体操教室に参加する高齢者に対して教室開催時に体力測定を実施した。参加した学生は与えられた測定方法を事前に練習し測定会に参加するなど積極的に行動してくれた。高齢者とも交流がで、良い教育の機会となった。
健康 科学部	理学療法 学科	深草地区在住高齢者の健康に向けた「たちばなタオル健康体操」の講演	安彦鉄平	京都市伏見区	なし	伏見区において公園体操として利用されているたちばな健康体操の第２段として、たちばなタオル健康体操を作成した。そこで、公園体操のボランティアリーダーを対象に、たちばなタオル健康体操の紹介および介護予防に関する講演を行った。2022年度は、講演を合計２回開催した。なお、深草・醍醐地域介護予防推進センター主催で実施した。

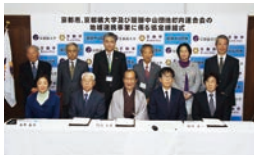
学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康 科学部	理学療法 学科	山科区在住高齢者に向けた「たちばなタオル健康体操」の講演	安彦鉄平	京都市山科区	なし	山科区鏡山学区の高齢者を対象に、たちばなタオル健康体操の紹介および介護予防に関する講演を行った。サルコペニアに関する内容を講義し、筋肉量を維持することの重要性を伝えた。その後、25分程度の体操を行った。
健康 科学部	理学療法 学科	野洲市の高齢者を対象とした「たちばな健康体操」の講演	安彦鉄平	滋賀県野洲市	なし	令和４年度野洲市いきいき百歳体操リーダー研修会として、「たちばな健康体操」の紹介および介護予防に関する講演を行った。健康寿命の延伸、認知症予防などを中心に講演を行い、その後、たちばな健康体操を行った。
健康 科学部	理学療法 学科	伏見区向島地区の高齢者を対象としたたちばな健康体操の講演	安彦鉄平	京都市伏見区	なし	伏見区本所包括支援センター主催のはつらつ体操講義として、「たちばな健康体操」の紹介および介護予防に関する講演を行った。健康寿命の延伸、認知症予防などを中心に講演を行い、その後、たちばな健康体操を行った。
健康 科学部	理学療法 学科	学まちチャレンジ！プロジェクト 「大学生が教えるケガ予防教室」	横山茂樹	京都市山科区	10名	スポーツリハサークルに所属する学生を中心に、スポーツ障害の予防を目的として実施した。大宅中学校運動部の選手30名程度を中心にテーピングやストレッチを指導した。また柔軟性の測定などを行い、ウォーミングアップ内容をアドバイスした。
健康 科学部	作業療法 学科	堺市教育委員会 自立活動アドバイザー事業外部専門家	原田瞬	大阪府堺市	なし	大阪府堺市教育委員会の事業で、市内の特別支援学校、小中学校において、巡回相談という形態で、対象児童の教科学習、自立活動の支援を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	大阪府高等学校支援教育力充実事業「医療専門家チーム」	原田瞬	大阪府	なし	大阪府教育委員会の事業で、府内の高等学校において、障がいにによる困難に関する判断や望ましい教育的対応についての専門的な指導助言を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	京都橘大学作業療法学科つながるプロジェクト	原田瞬 小川敬之 川﨑一平 永井邦明	山科区山科団地エリア	34名	山科きずな支援事業の助成を受け、山科区、地域自治会連合会と連携し、山科団地の活性化に向けた意見交換会、イベントを企画実践した。団地集会所にて、４回の健康イベントを実施した。学生は地域包括ケアシステム演習という科目の中で遠隔参加し、健康体操プログラムを実践した。
健康 科学部	作業療法 学科	京都市介護認定審査会	永井邦明	京都市	なし	京都市の附属機関として設置され、要介護者等の保健、医療、福祉に関する学識経験者によって構成される合議体(京都市介護認定審査会) の委員として要介護度の審査・判定に従事した。
健康 科学部	作業療法 学科	生活行為向上マネジメント書き方研修会	永井邦明	近畿MTDLP 連絡協議会	なし	京都府作業療法士会の会員を対象に「作業療法士の臨床思考過程を示すためのツール」である生活行為向上マネジメントの活用に関する講義と演習を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	日本作業療法士協会生涯教育制度検討プロジェクト　班長	高畑進一	日本作業療法士協会	なし	日本作業療法士協会生涯教育制度検討プロジェクト班長として、全国のOTを対象とする新たな卒後教育構想に基づく初年次研修制度の基礎となるアンケートを全国のOT部門管理者および卒後３年までのOTを対象に実施した。結果は３月に報告した。
健康 科学部	作業療法 学科	京都府作業療法士会主催現職者選択研修会　講師	高畑進一	京都府作業療法士会	なし	京都府作業療法士会主催現職者選択研修会において、作業療法士約40名に対し、「身体障害領域の基礎知識」について講演を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	【AMED】長寿科学研究開発事業	小川敬之	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	なし	厚労省、経産省などが主幹となり、国家レベルの研究事業の申請に対する検討を行う。この事業では、地域社会、共生社会の構築に関する研究事業を中心に審議する。
健康 科学部	作業療法 学科	【AMED】認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業	小川敬之	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	なし	厚労省、経産省などが主幹となり、国家レベルの研究事業の申請に対する検討を行う。この事業では、認知症医療、ケアに関する研究事業を中心に審議する。
健康 科学部	作業療法 学科	京都府作業療法士会養成部部長	小川敬之	京都府作業療法士会	なし	京都府作業療法士会に所属する養成校の教員を中心に、卒前、卒後教育のあり方などを検討し、研修会などを実施している。
健康 科学部	救急救命 学科	PEMECコース	福岡範恭	近畿	３回生14名	日本臨床救医学会認定の内因性疾患に対する実技講習会に傷病者役として参加した。
健康 科学部	救急救命 学科	PEMECコース	福岡範恭	近畿	参加あり	日本臨床救医学会認定の内因性疾患に対する実技講習会に傷病者役として参加する予定。
健康 科学部	救急救命 学科	朱一保育園BLS	杉木翔太	京都市	２回生５名	保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	安朱小学校BLS	杉木翔太 郷田爽真	京都市	３回生８名	小学生を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	大宅こども園BLS	杉木翔太 郷田爽真	京都市	３回生５名	園児、保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	円町まぶね隣保園BLS	杉木翔太 郷田爽真	京都市	２回生６名	保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	JPTECプロバイダーコース	関根和弘 澤田仁	京都府	４回生45名	外傷傷病者に対する現場アプローチを習得するコースに参加する予定。
健康 科学部	救急救命 学科	JESA学生救急救命技術選手権全国大会	関根和弘 福岡範恭 澤田仁	全国	参加あり100名	JESAに参加する救命士養成校の学生選手権全国大会を主担当して開催した。
健康 科学部	救急救命 学科	机上図上訓練エマルゴ	久保山一敏 関根和弘	京都市他	３回生50名	災害机上図上訓練であるエマルゴを実施。
健康 科学部	臨床検査 学科	たちばなサイエンスデー2022	所司睦文 大澤幸希光	京都市	学部生３名 院生１名	京都市内在住の小学１～６年生とその保護者を対象とした大学の研究に触れてみようという企画。「耳を使わず音が聞けるのか」、「箱の中に何が入っている」、「科学者になってみよう」ほか、および、「顕微鏡をつかってミクロの世界をのぞいてみよう」などの体験コーナーを出展した。

Ⅲ
自治体等との連携協力に関する協定の締結

協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2012 年度～ 2022 年度

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
学校法人　昭和大学	2012年 1月16日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。	 昭和大学との包括協定調印式
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部の主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1学生約360万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流	 第二赤十字病院との包括協定調印式
京都市山科区	2013年 9月24日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進	 山科区との協定締結式
社会福祉法人 京都博愛会 （京都博愛会病院）	2014年 3月5日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
社会福祉法人 大宅福祉会 （おおやけこども園）	2014年 6月1日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項	
滋賀県野洲市	2014年 6月17日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項	
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動	 醍醐中山団地との協定締結式

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
滋賀県草津市	2014年 12月25日	本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。 ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業	 草津市との協力に関する協定を締結
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項（看護学実習の受け入れなど） ○その他両者が必要と認める事項	
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 （京都市東部文化会館）	2015年 11月5日	本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。 ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習	 京都市音楽芸術文化振興財団との 連携に関する協定を締結
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日	本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。 ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興	 那智勝浦町と 「大学のふるさと」協定を締結
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日	本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。	 児童館における 学習支援事業に係る協定を締結
京都府山科警察署	2017年 9月11日	本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。	 京都府山科警察署との 協力に関する協定を締結
京都市 全国認定こども園協会京都府支部	2017年 8月4日	本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。	 京都の幼児教育・ 保育施設と幼稚園教諭免許状更新の 連携・協力協定を締結
株式会社ビバ	2018年 3月	本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。	 株式会社ビバとの 連携に関する協定を締結

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
福井県小浜市	2018年 3月	本学と福井県小浜市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○地域振興を担う人材育成に関すること ○地域社会の活性化およびまちづくりに関すること ○教育および学習機会の提供に関すること ○産業振興に関すること ○情報収集および発信に関すること ○その他、目的を達成するために必要な事項に関すること	 小浜市との包括協定を締結
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月	本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成　等	 京都市児童館等との職業体験に関する４者協定を締結
京都薬科大学	2019年 3月18日	本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。 その協定に基づき、合同多職種連携教育（「IPE」）を実施する。 ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設：設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
守山市	2019年 7月	本学と守山市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他必要と認められる事項	 守山市との包括協定を締結
イオンタウン株式会社	2019年 11月	本学とイオンタウン株式会社は、同社が開業するイオンタウン山科椥辻において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的に、主に次に掲げる事業の企画の企画、実施等について連携し、協力する。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他必要と認められる事業	
株式会社ルネサンス	2020年 4月1日	本学と株式会社ルネサンスは株式会社ルネサンスが開業する「スポーツクラブルネサンス・イオンタウン山科椥辻」において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的として協定を締結。 以下の事項について連携し協力する。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他協議して必要と認める事業	
大阪大学 データビリティフロンティア機構	2020年 5月1日	本学と大阪大学データビリティフロンティア機構に設置するライフデザイン・イノベーション拠点本部は、健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野に関連するイノベーションの創出を目指して、連携協定を締結。 ○健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野の共同研究に関する事項 ○研究に必要な施設・設備・備品の共同利用に関する事項 ○学生及び教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
日本電気株式会社 (NEC)	2020年 11月2日	本学と日本電気株式会社は、産学連携によりAI・ITなど先端技術に関する教育・研究施設の整備および教育活動、次世代の学習環境の構築に係る研究活動について連携・協力するために協定を締結。 ○AI・ITなど先端技術の教育・研究に必要な施設・設備等の整備に関する事項 ○AI・ITなど先端技術人材教育に関する事項 ○次世代の学習環境構築に関する事項 ○その他必要と認められる事項"	 日本電気株式会社との連携・協力に関する協定を締結
京都市	2021年 2月5日	本学と京都市は、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、ふるさと納税を活用した大学・地域の連携強化に関する協定を締結。 ○ふるさと納税の活用促進に関すること ○大学・学生との地域の連携強化等に関すること ○その他双方が必要と認めること	
医療法人社団洛和会	2023年 1月30日	本学と医療法人社団洛和会は看護職者の養成、看護・医療をめぐる教育・研究の振興および地域医療の発展を目的に包括協定を締結。 以下の事項について連携し協力する。 ○看護職者養成のための看護学実習の受け入れなど教育・研究活動への支援に関すること ○看護職および看護・医療のレベルアップのために支援に関すること ○教育・研究および地域医療の発展のため、その他必要な連携と協力を推進すること	

2022京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（2022年4月～ 2023年3月）

発行日　2023年3月31日
発　行　京都橘大学　地域連携センター
〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34
TEL：075-574-4186　FAX：075-574-4149
URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/
E-mail：aca-ext@tachibana-u.ac.jp